

毛呂山町 人口ビジョン

平成27年8月

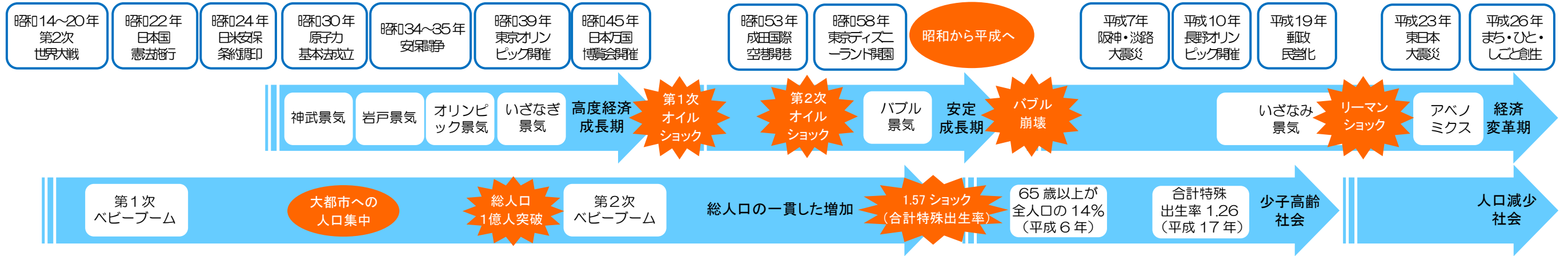
目次

巻頭1

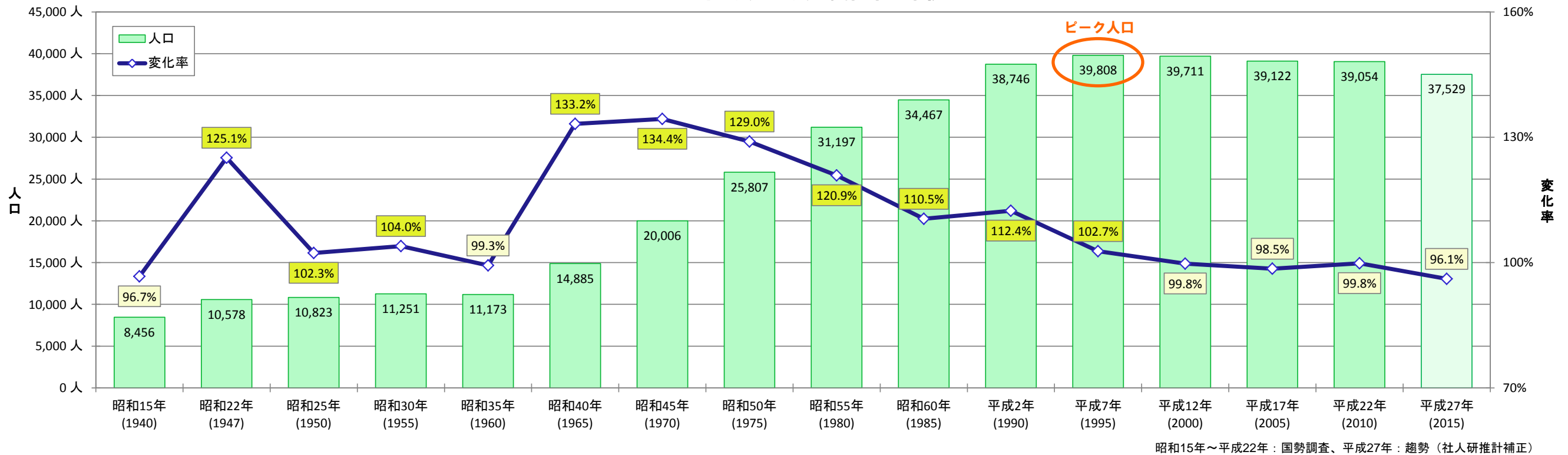
巻頭2

I. 人口ビジョンについて.....	1
(1) 策定の趣旨	1
(2) 毛呂山町人口ビジョンの位置づけ	1
(3) 対象期間	1
(4) 国の「長期ビジョン」	2
(5) 国の人口推移と時代のトレンド	3
II. 毛呂山町の人口動向の現状と見通し.....	4
1. 現状分析.....	4
(1) 人口動向分析についての基本的考え方.....	4
(2) 人口動向	5
(3) 人口動態	7
(4) 要因別分析	8
(5) その他.....	12
2. 将来人口の見通し.....	15
(1) 趨勢人口と戦略人口	15
(2) 国調ベースによる現状人口と社人研による推計人口との比較	16
(3) 人口推計の基本的考え方.....	17
3. 毛呂山町の趨勢人口の見通し	17
(1) 趨勢人口を踏まえた将来人口シミュレーション	19
4. 毛呂山町における人口動向・構造の特性と課題.....	28
III. 人口の将来展望	30
1. 将来を見据えた人口問題に対する取組の考え方.....	30
2. 戦略人口と将来展望.....	31
(1) 戦略人口	31
3. 目指すべき将来の方向.....	32

国内の主な出来事



毛呂山町の人口と人口変化率の推移



県内及び町内の主な出来事

埼玉県

昭和25年 県庁建設地 県議会で浦和に決定

昭和34年 埼玉県市町村合併により323市町村→95市町村

昭和37年 人口250万人突破(全国9位)

昭和44年 新大宮バイパス全線開通

昭和52年 人口500万人突破(全国7位)

昭和60年 埼京線大宮~池袋開業

昭和62年 首都高速川口線開通

平成9年 埼玉県長期ビジョン策定

平成13年 さいたま市誕生 県内初の100万都市

平成23年 東日本大震災 東部地区中心に建物倒壊や液状化の被害

毛呂山町

昭和14年 毛呂村と山根村が合併し、毛呂山町となる

昭和30年 川角村と合併し、毛呂山町となる

昭和32年 入間郡坂戸町の一部を編入する

昭和37年 武州長瀬駅周辺に団地開発がはじまる

昭和53年 埼玉県立毛呂山高等学校が開校

昭和62年 新図書館が開館

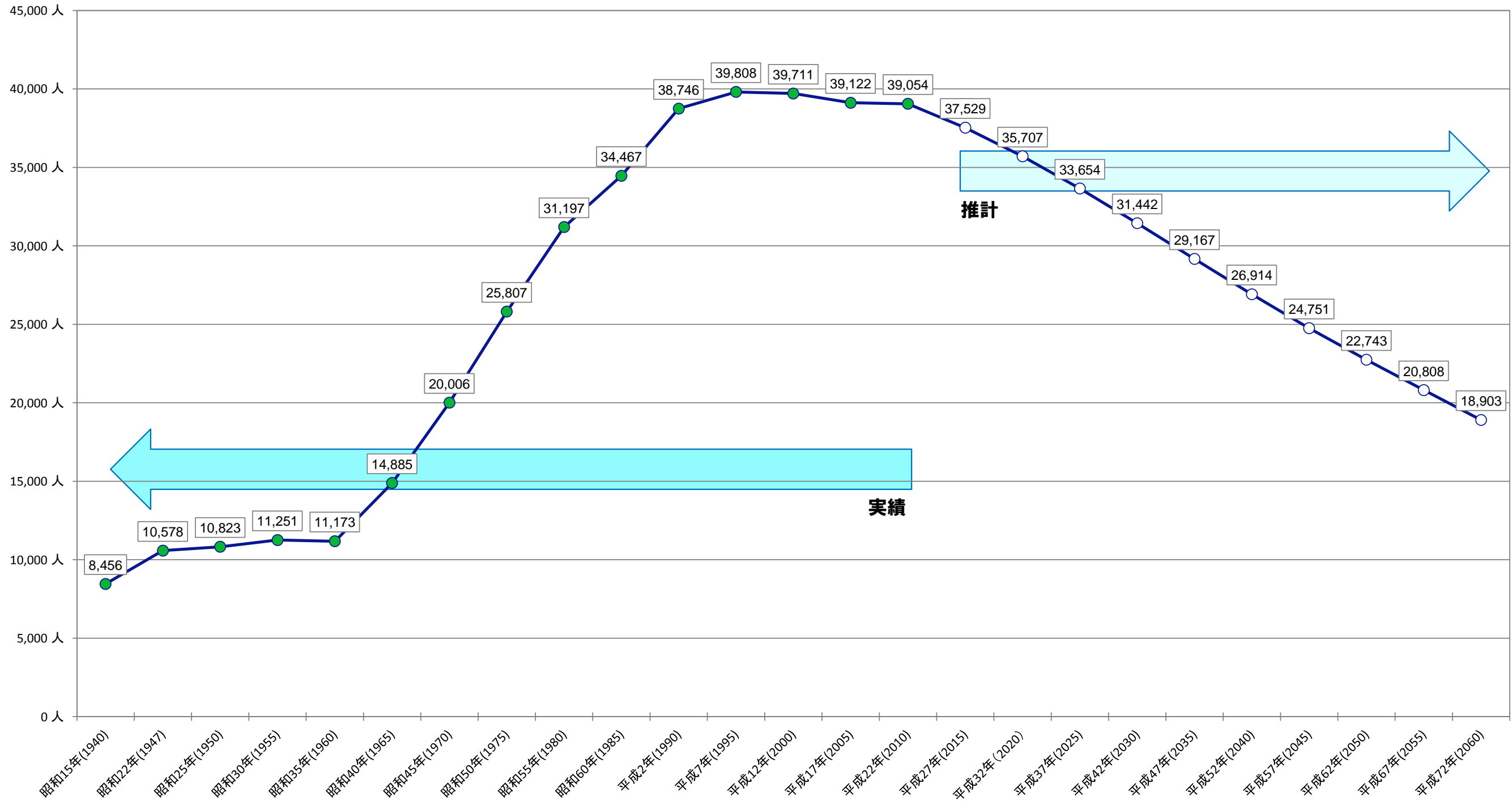
平成5年 歴史民俗資料館が開館

平成11年 ゆずの里オートキャンプ場オープン

平成16年 町界町名地番整理事業が開始

平成20年 埼玉県立毛呂山高等学校が廃校

毛呂山町の長期人口推移



昭和15年～平成22年：国勢調査、平成27年：趨勢(社人研推計補正)

Ⅰ. 人口ビジョンについて

(1) 策定の趣旨

- 我が国では、2008年の1億2,808万人をピークに人口減少局面に入っており、今後も年少人口の減少と老年人口の増加を伴いながら、2050年に9,700万人程度、2100年には5,000万人未満まで減少するという推計が出されています。また、地域間経済格差等が、若い世代の地方から東京圏への流出、ひいては東京圏一極集中を招いています。
- こうした背景を踏まえ、「まち・ひと・しごと創生法」と「地域再生法の一部を改正する法律」が成立しました。この「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国では「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定、平成26年12月27日に閣議決定されました。
- 毛呂山町においても、人口減少に伴う地域課題に対応するために、今後町がめざすべき方向性を示す「毛呂山町人口ビジョン」を策定します。

(2) 毛呂山町人口ビジョンの位置づけ

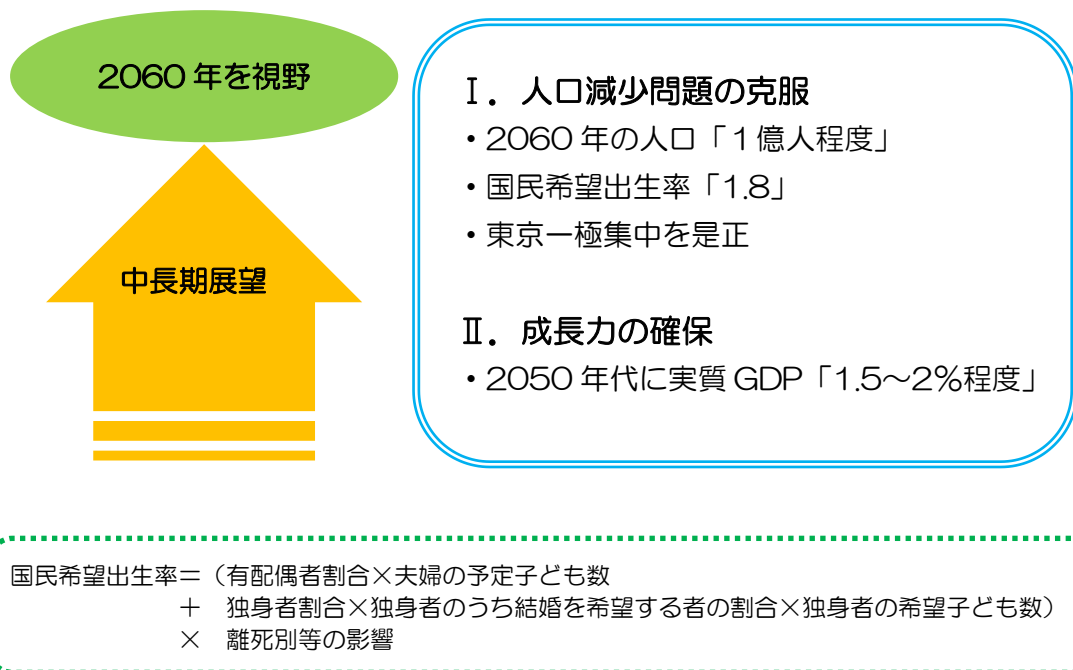
- 毛呂山町人口ビジョンは、人口の現状や人口の推計を分析することで、町の人口動向の特性と課題を把握し、目標とする将来人口と、将来人口に基づく将来の展望を提示するものです。また、同時に策定する「毛呂山町総合戦略」の目標設定や、必要な施策・事業を検討する上で、重要な基礎資料となります。

(3) 対象期間

- 毛呂山町人口ビジョンの対象期間は、国の「長期ビジョン」と同じく、2015年から2060年までとします。

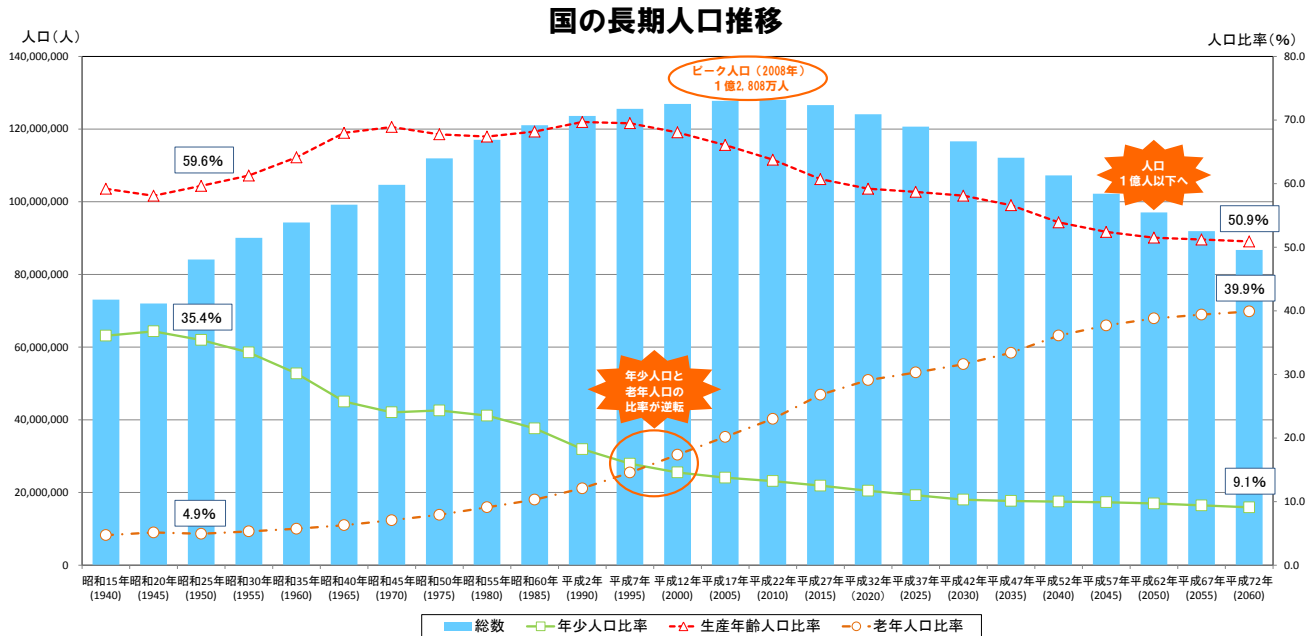
(4) 国の「長期ビジョン」

○国の「長期ビジョン」は以下のとおりです。



(5) 国の人口推移と時代のトレンド

○我が国の人口は、1950 年以降、一貫して増加していましたが、2008 年をピークに減少に転じており、2060 年には 8,674 万人程度にまで減少すると推計されています。これは高度経済成長期以前の 1950 年の人口と概ね同程度ですが、年齢構成を比較すると、年少人口（0～14 歳）と生産年齢人口（15～64 歳）の割合が小さく、老年人口（65 歳以上）の割合が大きくなっており、年少人口数と老年人口数がほぼ逆転しています。



時代のトレンド

人口の減少

2014 年の総人口「1 億 2,708 万 3 千人」
※2008 年（ピーク人口）から 100 万人程度減少

全国的な低出生率と大都市の超低出生率

2014 年の合計特殊出生率「1.42（東京都 1.15）」
※8 年連続の自然減少

晩婚化の進行

1975 年の平均初婚年齢「夫 27.0 歳、妻 24.7 歳」
→2013 年の平均初婚年齢「夫 30.9 歳、妻 29.3 歳」

人口の東京一極集中

2013 年の地方圏転出超過「89,786 人」、東京圏転入超過「96,524 人」
※18 年連続の東京圏転入超過

移動の縮小

1973 年の移動「4,234,228 人」→1993 年の移動「3,079,080 人」
→2013 年の移動「2,301,895 人」
※20 年で 25.2%、40 年で 45.6%の縮小

高齢化の進行

2014 年の 65 歳以上人口「3,300 万人」
※高齢化率 26.0%

(人口推計(平成 26 年 10 月 1 日)結果の概要、人口動態統計、人口移動報告)

II. 毛呂山町の人口動向の現状と見通し

1. 現状分析

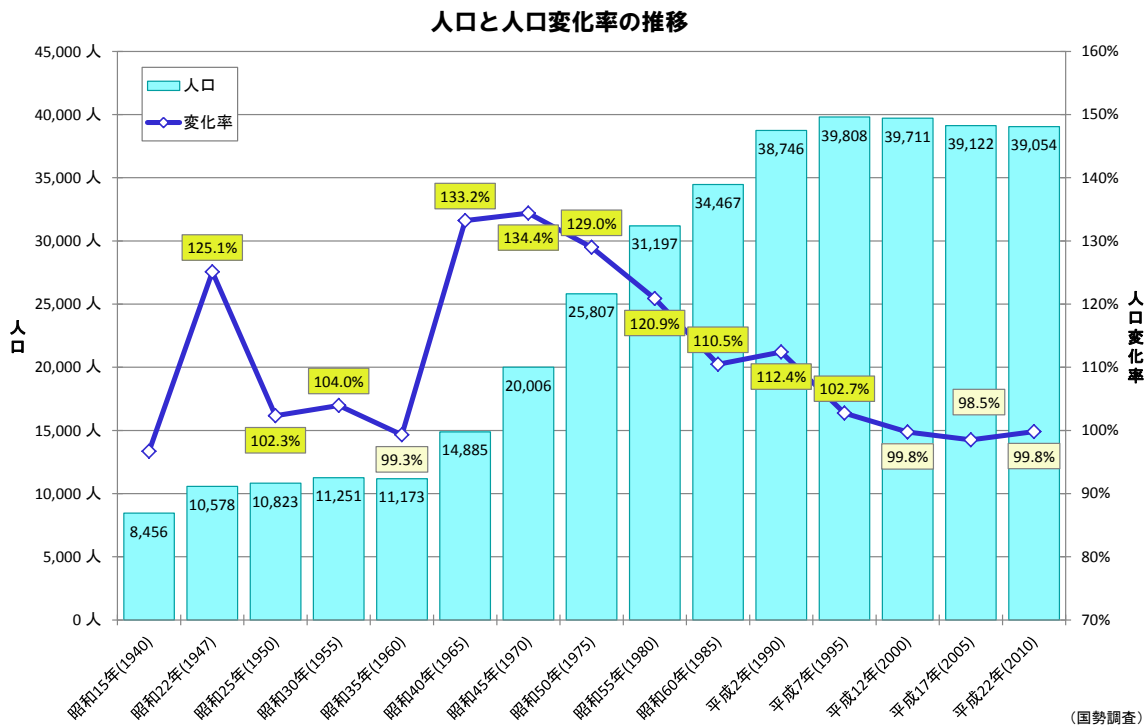
(1) 人口動向分析についての基本的考え方

○過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより、講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、時系列による人口動向や年齢階級別の人口移動分析を行います。

[総人口の推移]

○毛呂山町では、戦後の復員やベビーブーム、さらにその後の高度経済成長期やバブル経済期に伴う人口流入により、平成7年まで人口が大きく増加し、昭和15年の8,456人から平成7年には39,808人となっています。

○その後は緩やかに減少傾向で推移しており、平成22年には39,054人となっています。

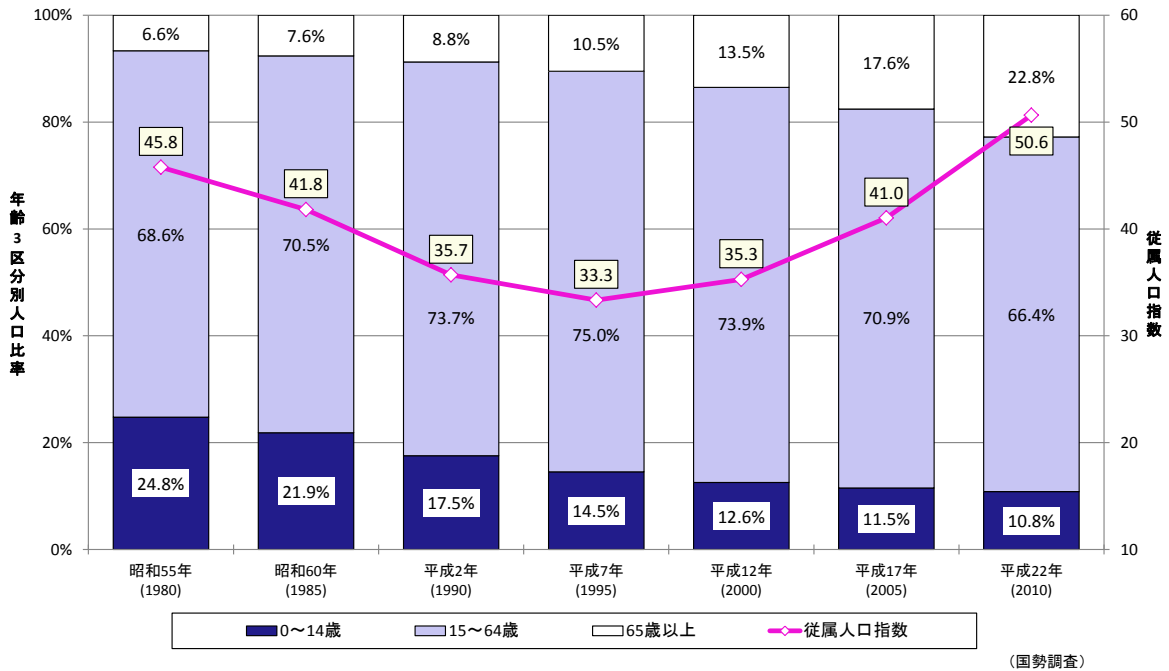


(2) 人口動向

① 人口の構造

年齢3区分別の人口構造の推移についてみると、老年人口が昭和55年の6.6%から平成22年には22.8%と30年間で16.2ポイント増加している一方で、年少人口は24.8%から10.8%と14ポイント減少しており、少子高齢化が進行していることがわかります。従属人口指数は、昭和55年の45.8から平成7年には33.3まで減少しましたが、その後増加し平成22年には50.6となっています。

年齢3区分別人口構造と従属人口指数の推移



(国勢調査)

従属人口指数とは、生産年齢人口（15～64歳）に対する年少人口（0～14歳）、老年人口（65歳以上）の合計の比率で、働き手である生産年齢人口100人が年少人口と老年人口を何人支えているかを示すものです。

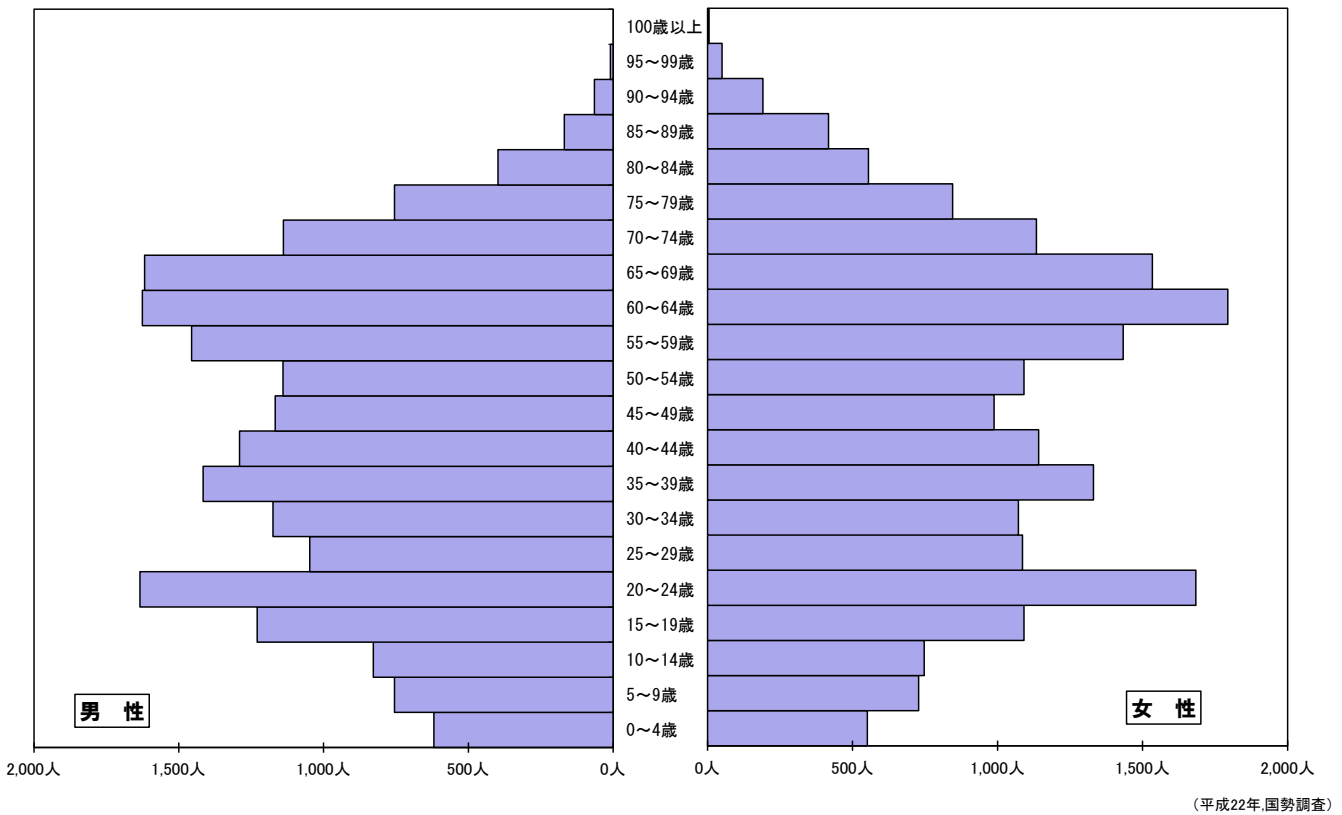
(人)

		昭和55年(1980)	昭和60年(1985)	平成2年(1990)	平成7年(1995)	平成12年(2000)	平成17年(2005)	平成22年(2010)	
人口	年少人口	0~4歳	2,117	1,831	1,701	1,534	1,413	1,308	1,170
		5~9歳	2,996	2,455	2,300	1,874	1,665	1,496	1,483
		10~14歳	2,609	3,250	2,796	2,371	1,906	1,673	1,575
		計	7,722	7,536	6,797	5,779	4,984	4,477	4,228
	生産年齢人口	15~19歳	2,633	3,285	4,240	3,547	2,840	2,402	2,320
		20~24歳	3,326	3,496	4,300	5,004	4,247	3,650	3,318
		25~29歳	2,247	2,087	2,267	2,789	3,308	2,592	2,134
		30~34歳	2,664	2,384	2,189	2,154	2,444	2,751	2,247
		35~39歳	2,836	2,994	2,870	2,229	2,158	2,325	2,747
		40~44歳	2,282	3,009	3,383	2,925	2,254	2,085	2,432
		45~49歳	1,866	2,393	3,209	3,495	2,928	2,245	2,155
		50~64歳	3,540	4,652	6,084	7,708	9,170	9,484	8,540
		計	21,394	24,300	28,542	29,851	29,349	27,534	25,893
	老年人口	65~74歳	1,365	1,699	2,135	2,585	3,273	4,163	5,425
		75歳以上	706	926	1,256	1,590	2,095	2,660	3,460
計		2,071	2,625	3,391	4,175	5,368	6,823	8,885	
年齢不詳		10	6	16	3	10	288	48	
総人口		31,197	34,467	38,746	39,808	39,711	39,122	39,054	
構成比	年少人口	0~14歳	24.8%	21.9%	17.5%	14.5%	12.6%	11.5%	10.8%
	生産年齢人口	15~64歳	68.6%	70.5%	73.7%	75.0%	73.9%	70.9%	66.4%
	老年人口	65歳以上	6.6%	7.6%	8.8%	10.5%	13.5%	17.6%	22.8%

(国勢調査)

平成 22 年の毛呂山町の 5 歳階級別の人口構造をみると、20～24 歳の人口が多くなっています。一方で、団塊の世代を含む 55～69 歳の人口の割合も大きくなっており、今後さらに高齢化が進むことが予測されます。

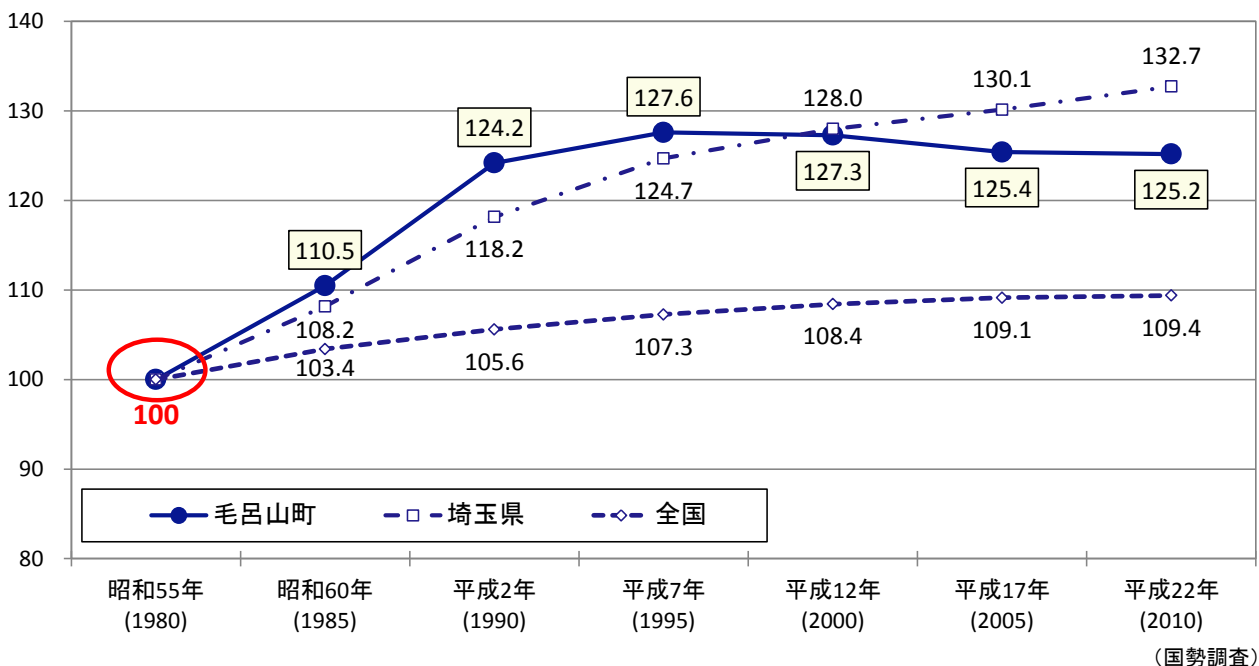
毛呂山町の 5 歳階級別人口構造



② 人口変化指数

昭和 55 年の人口を 100 とした場合の変化指数の推移を全国・埼玉県・毛呂山町で比較すると、全国・埼玉県では平成 22 年がピークとなっているのに対し、毛呂山町は平成 7 年の 127.6 をピークに減少傾向で推移しており、平成 22 年には 125.2 となっています。

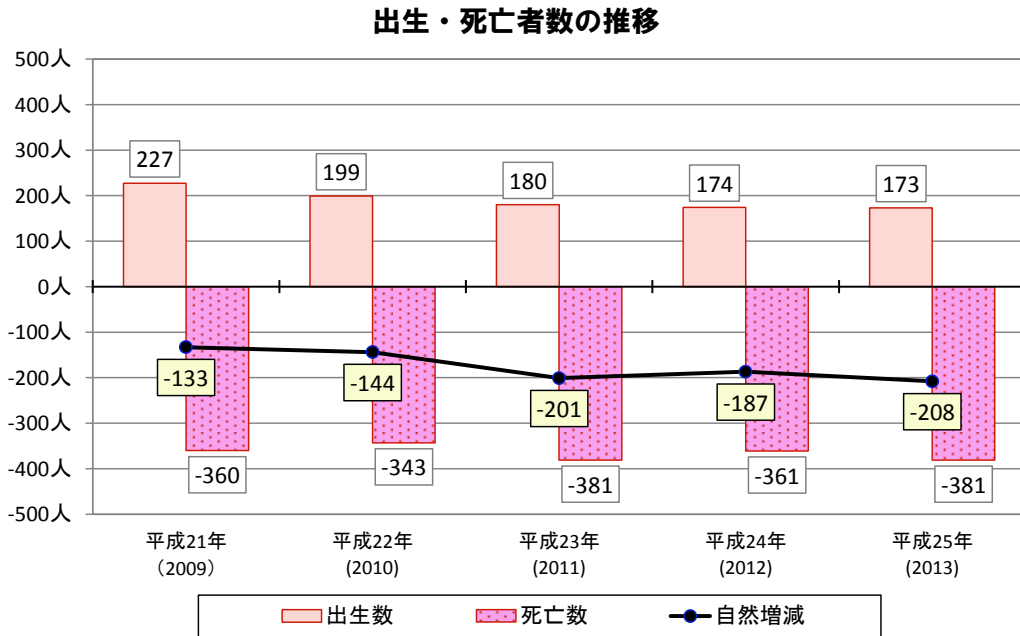
人口変化指数の推移



(3) 人口動態

① 自然動態

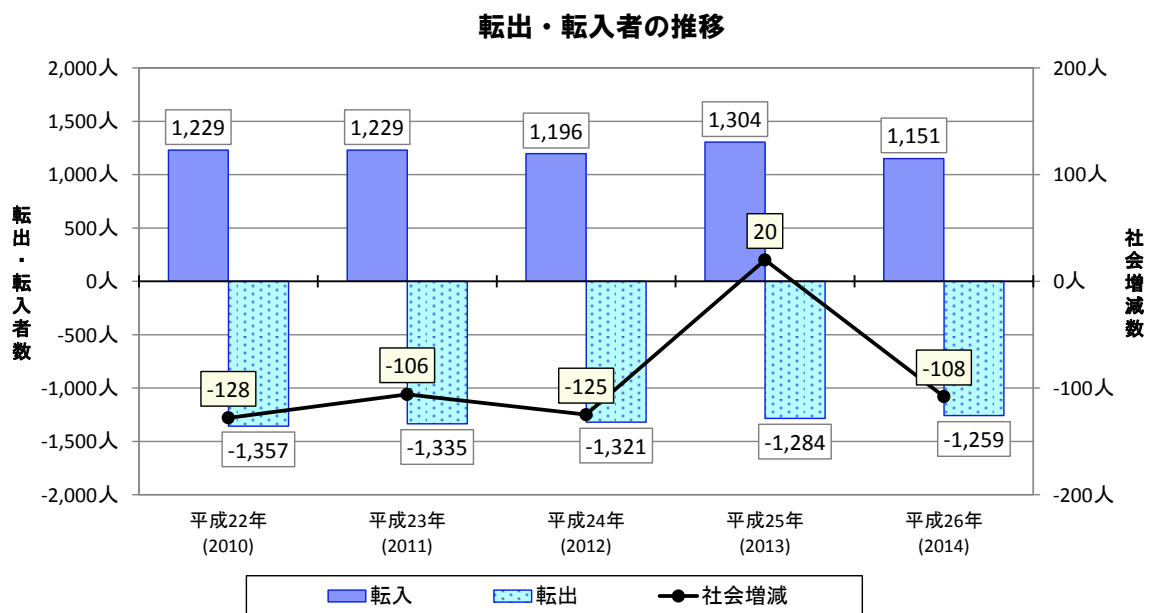
平成 21～25 年の5年間の出生・死亡者数をみると、出生数は減少傾向で死亡者数はほぼ横ばいで推移しており、自然増減は各年 150～200 人前後減少しています。



(人口動態統計)

② 社会動態

平成 22～26 年の5年間の転入・転出者数をみると、多少の振幅はあるものの、転入者数はほぼ横ばい、また転出者数はゆるやかに減少しており、社会増減は一時的に転入が増加した平成 25 年を除き、各年 100 人程度減少しています。

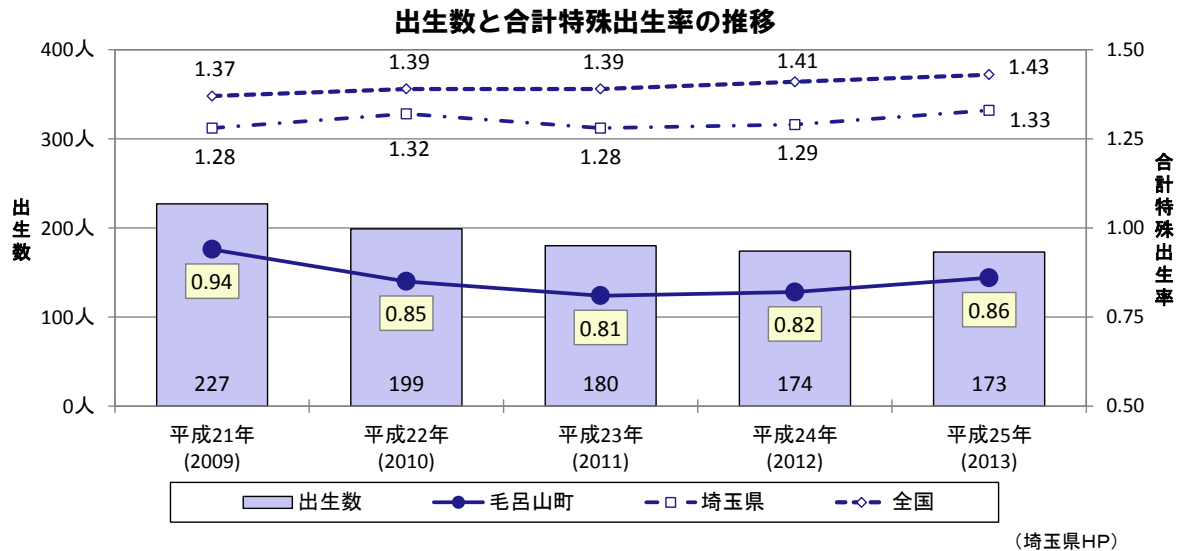


(住民基本台帳)

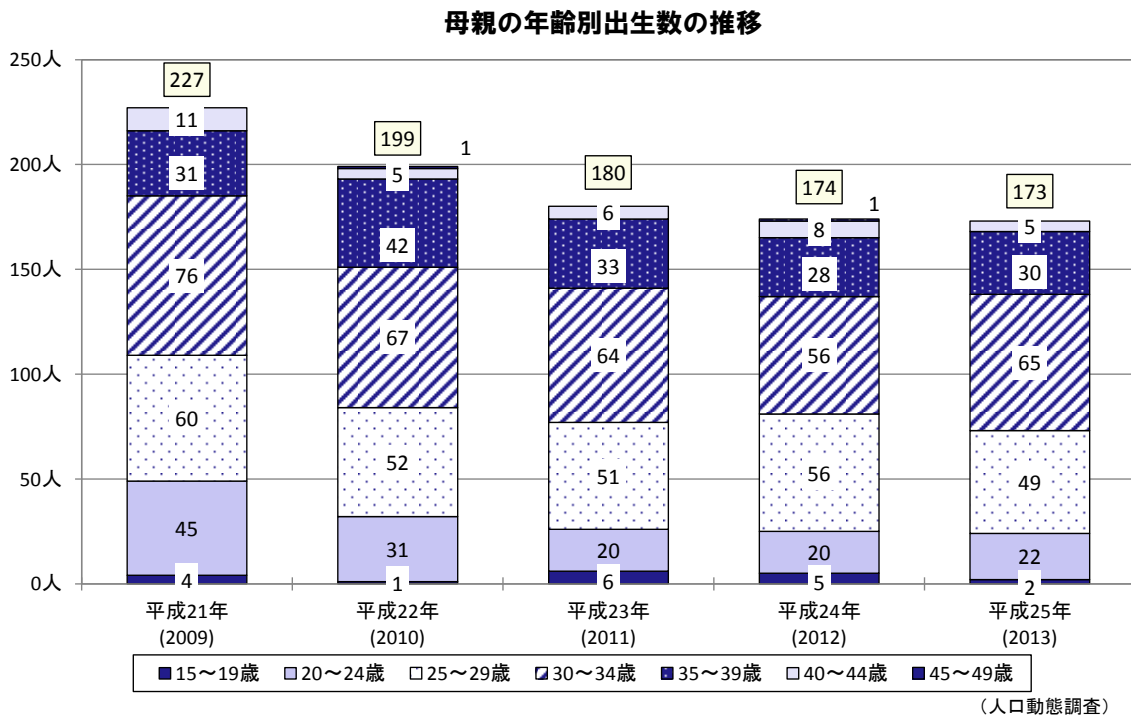
(4) 要因別分析

① 出生の状況

平成 21～25 年の5年間の合計特殊出生率の推移をみると、それぞれほぼ横ばいで推移していますが、毛呂山町の合計特殊出生率は全国・埼玉県と比較して低く、すべての年で 1.0 を下回っています。



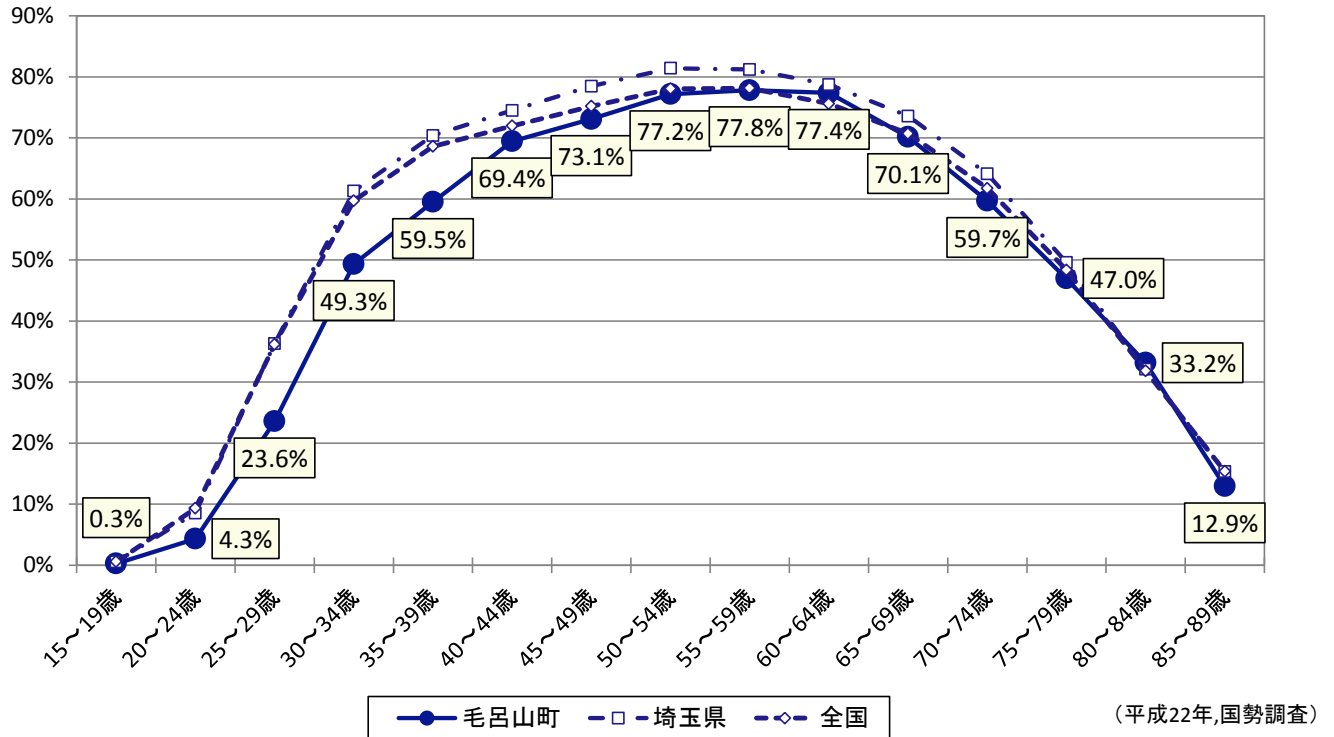
母親の年齢別出生数の推移をみると、各年でそれぞれ 30 代の母親の出生数が 20 代の母親の出生数を上回っていることがわかります。



平成 22 年の女性の有配偶率を全国・埼玉県・毛呂山町で比較すると、“80～84 歳”を除いたすべての年代で、毛呂山町女性の有配偶率は全国・埼玉県に比べて低くなっています。

なお、20 代の女性の有配偶率の低さは社会的な晩婚化、80 歳以上の女性の有配偶率の低さは死別が原因と考えられます。

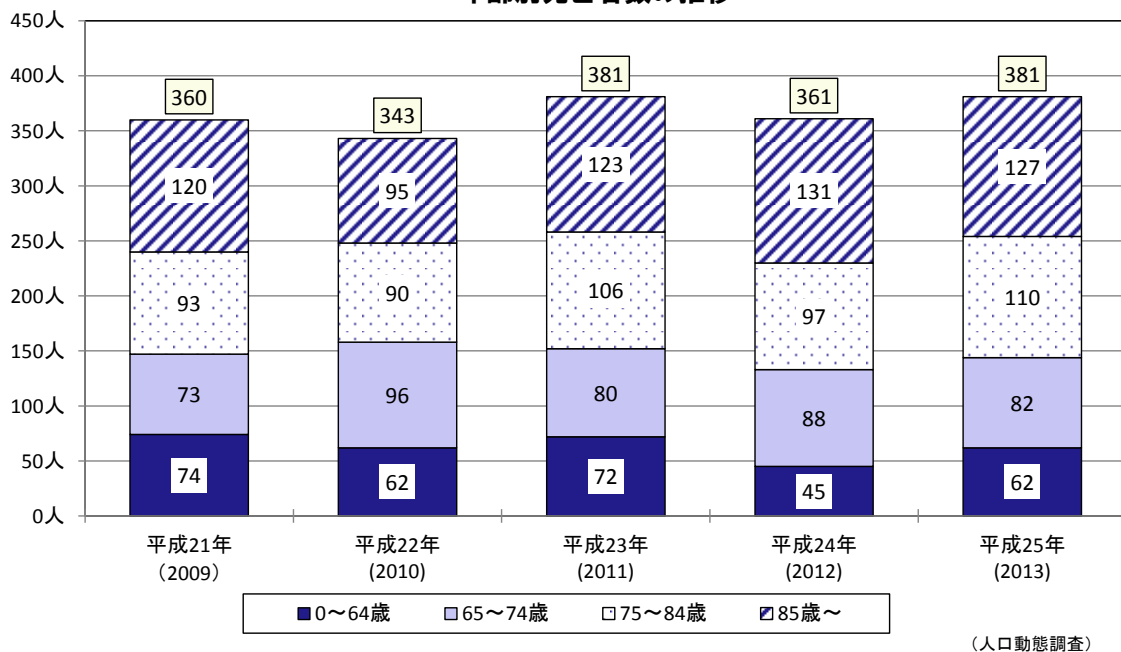
女性の有配偶率



② 死亡の状況

平成 21～25 年の5年間の年齢別死亡者数をみると、85 歳以上だけでなく、65～84 歳が占める割合が高くなっています。

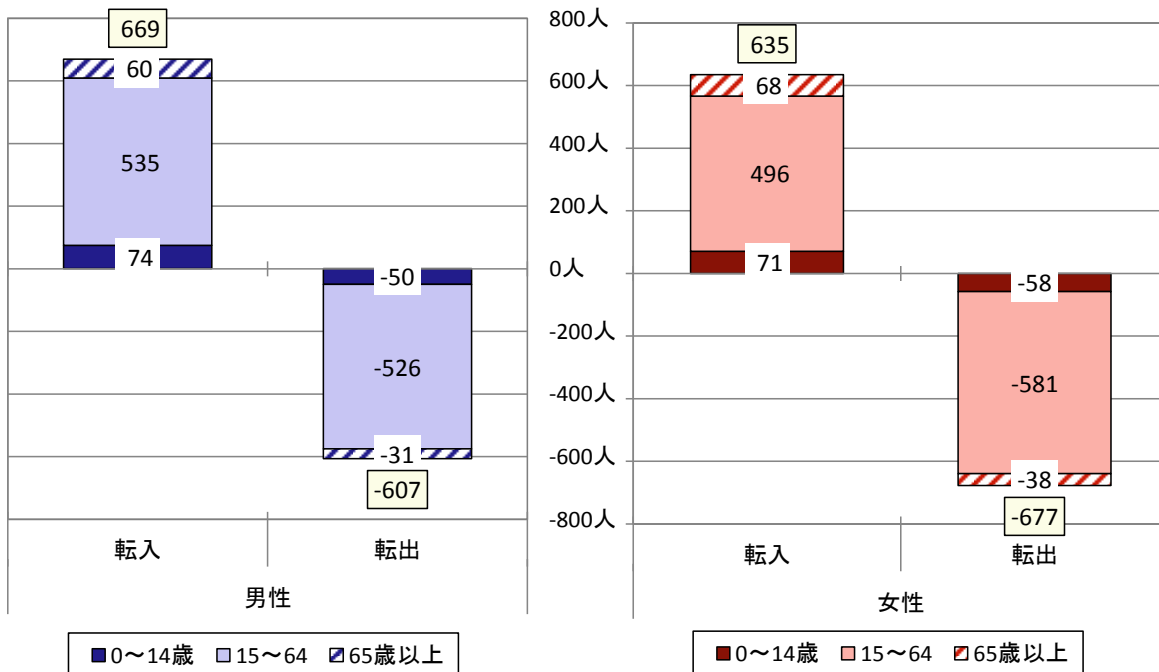
年齢別死亡者数の推移



③ 転入・転出の状況

平成 25 年の転入・転出の状況を性別・年齢3区分別にみると、15～64 歳の女性が 85 人の転出超過となっているものの、他の性別・年齢区分では転入超過となっています。なお、男女ともに“15～64 歳”の移動が全体の約 8 割を占めている状況です。

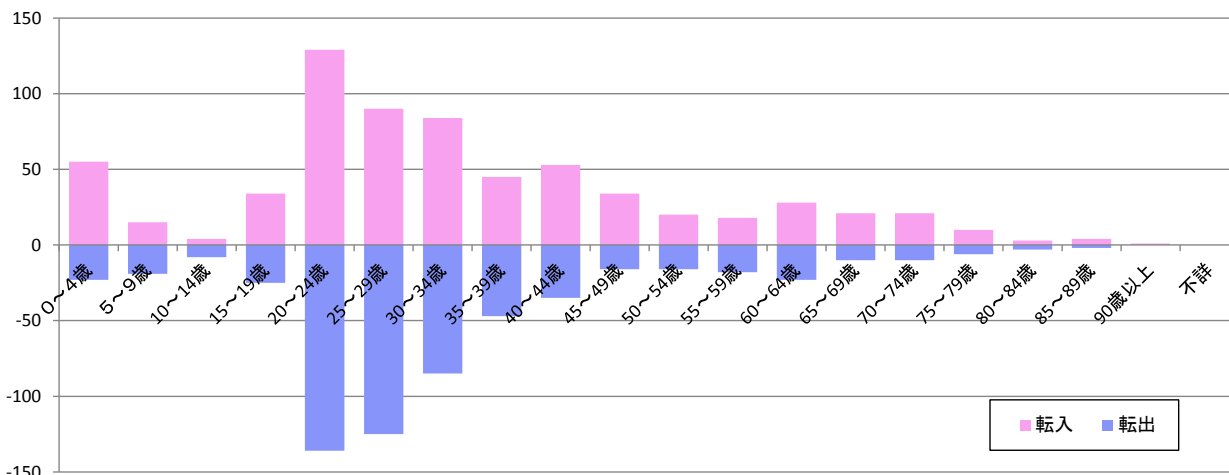
性別・年齢3区分別の転入・転出の状況



(平成25年,住民基本台帳)

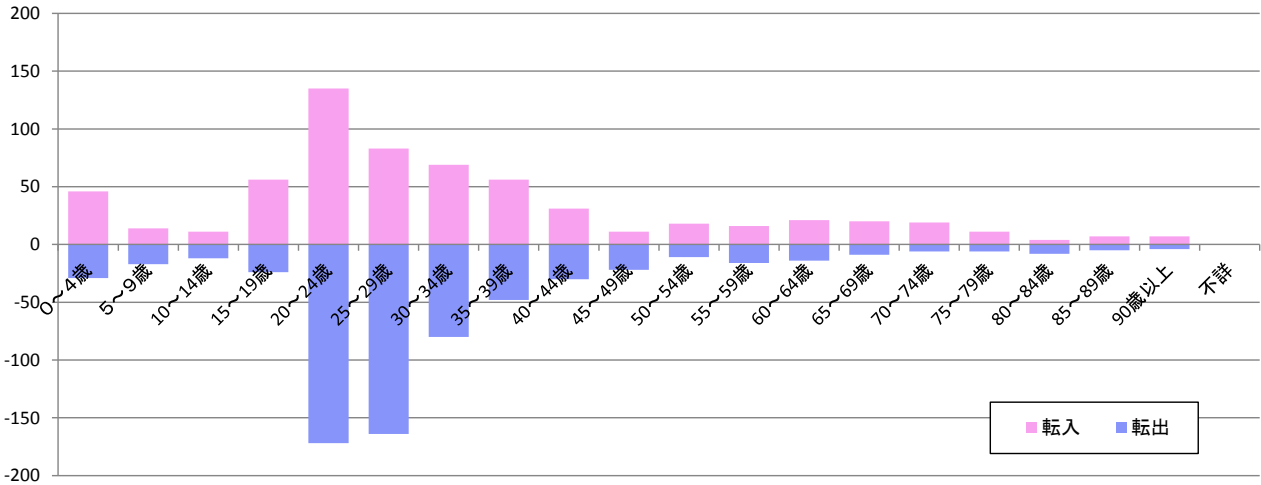
また、平成 25 年の転入・転出の差である純移動数について、性別・年齢区分別にみると、男性では“25～29 歳”、女性は“20～24 歳”“25～29 歳”で大幅な転出超過となっています。これは進学、就職、結婚等の移動を伴うライフイベントが要因であると考えられます。

年齢階級別 転入・転出の状況(男性)



(平成25年,住民基本台帳)

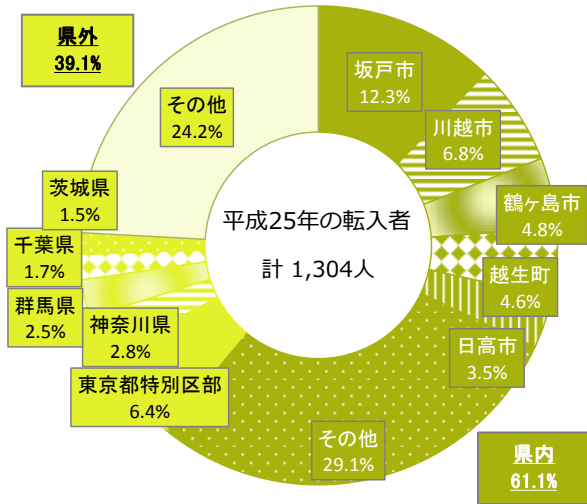
年齢階級別 転入・転出の状況(女性)



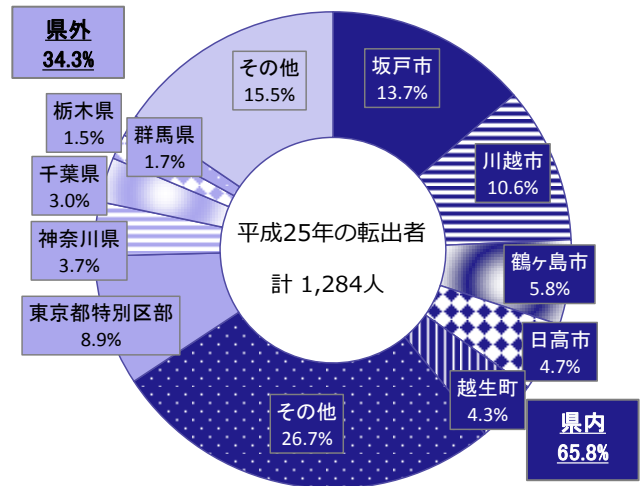
(平成25年,住民基本台帳)

平成25年の転入・転出の状況を居住地別にみると、県内の移動が全体の6割以上を占めています。なお県内では、転入・転出ともに坂戸市が最も多く、次いで川越市、鶴ヶ島市となっており、県外では、転入・転出ともに東京都特別区部が最も多くなっています。

転入の状況



転出の状況



(5) その他

① 通勤・通学の状況

平成 22 年の町内常住の就業者・通学者 20,725 人の従業・通学地についてみると、町内に通勤・通学している人が 7,924 人 (38.2%)、他市区町村が 12,072 人 (58.2%) となっています。

他市区町村の通勤・通学先は、坂戸市が最も多い 2,095 人 (17.4%)、次いで川越市が 1,406 人 (11.6%)、日高市が 1,153 人 (9.6%) の順となっています。

他市区町村常住の就業者・通学者で毛呂山町に通勤・通学している人をみると、坂戸市から通勤・通学している人が 1,330 人 (17.9%)、次いで越生町が 804 人 (10.8%) となっています。

区分	町内		他市町村		不詳	計
	自宅で従業・通学	自宅外で従業・通学	県内の他市町村で従業・通学	県外の他市町村で従業・通学		
男	1,049	2,512	5,838	1,699	430	11,528
女	625	3,738	3,879	656	299	9,197
小計	1,674	6,250	9,717	2,355		
計	7,924 38.2%		12,072 58.2%		729	20,725

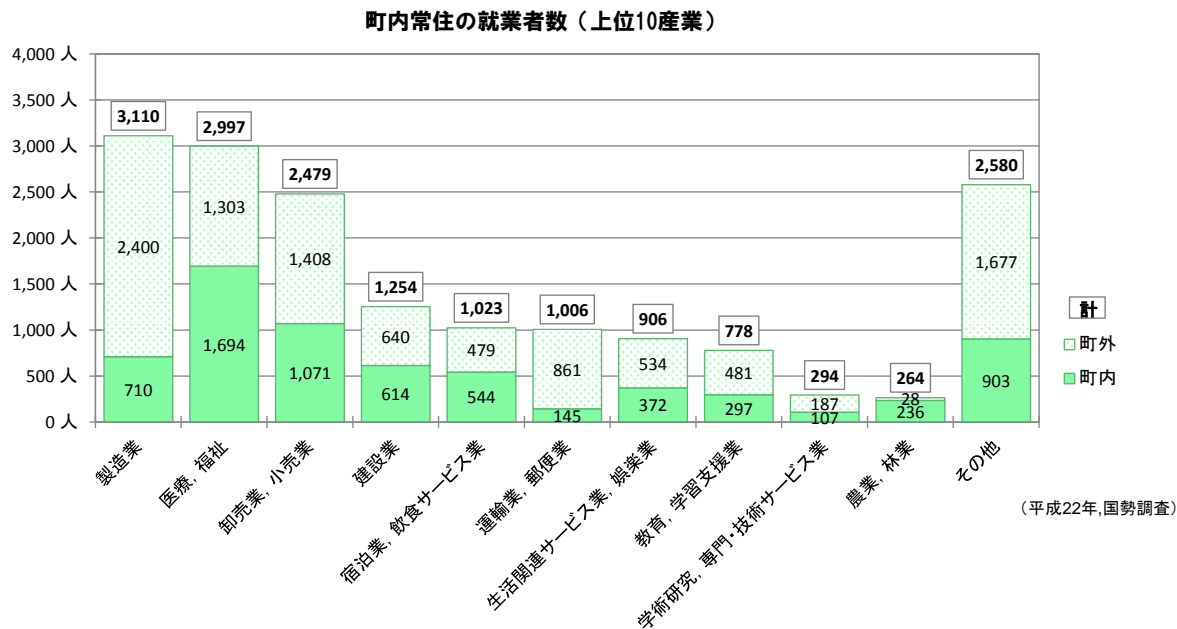
従業・通学地別の就業者・通学者数

区分	毛呂山町から他市町村へ				他市町村から毛呂山町へ				
	総数	構成比	就業者	通学者	総数	構成比	就業者	通学者	
総数	12,072	100.0%	9,998	2,074	7,436	100.0%	5,613	1,823	
県内	坂戸市	2095	17.4%	1,412	683	1,330	17.9%	1,105	225
	川越市	1406	11.6%	1,190	216	718	9.7%	477	241
	日高市	1153	9.6%	1,042	111	520	7.0%	457	63
	鶴ヶ島市	706	5.8%	665	41	689	9.3%	558	131
	越生町	631	5.2%	495	136	804	10.8%	762	42
	東松山市	573	4.7%	484	89	323	4.3%	241	82
	狭山市	426	3.5%	403	23	149	2.0%	82	67
	飯能市	399	3.3%	338	61	279	3.8%	212	67
	さいたま市	267	2.2%	221	46	132	1.8%	72	60
	鳩山町	245	2.0%	205	40	262	3.5%	241	21
	その他	1,816	15.0%	1,662	154	1,595	21.4%	1,089	506
計	9,717	80.5%	8,117	1,600	6,801	91.5%	5,296	1,505	
県外	東京都	1,955	16.2%	1,613	342	432	5.8%	237	195
	その他	176	1.5%	149	27	203	2.7%	80	123
	計	2,131	17.7%	1,762	369	635	8.5%	317	318
不詳	224	1.9%	119	105	0	0.0%	0	0	

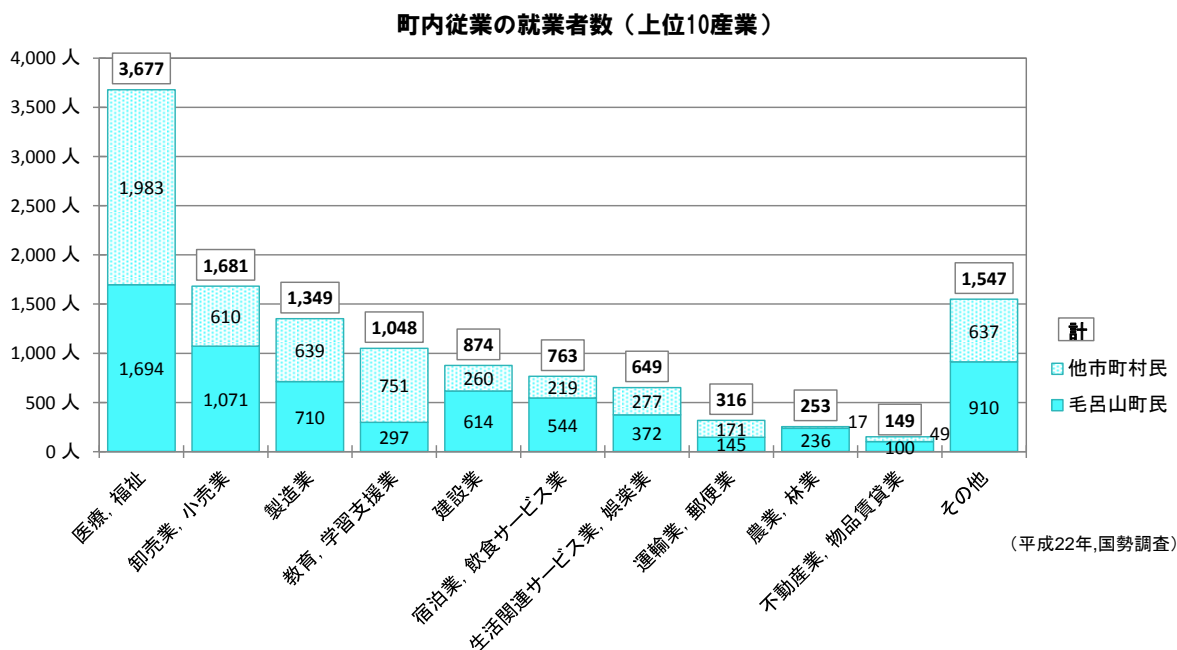
(平成22年,国勢調査)

② 就業の状況

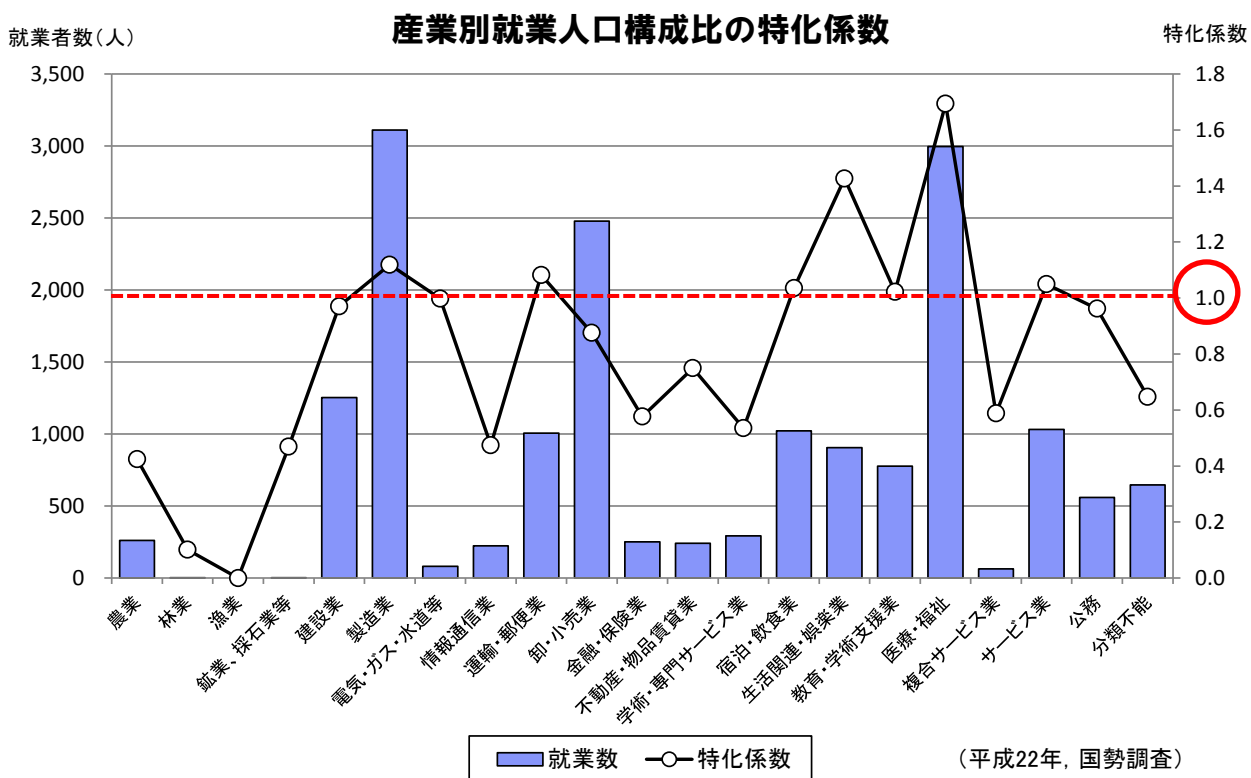
平成 22 年の町内常住の就業者について産業分類別にみると、製造業が 3,110 人と最も多く、そのうち町内で就業しているのは 710 人（22.8%）となっています。次いで、医療・福祉が 2,997 人で、そのうち 1,694 人（56.5%）が町内で就業している状況です。



また、平成 22 年の町内従業の就業者について産業分類別にみると、医療・福祉が 3,677 人と最も多く、そのうち他市町村常住者は 1,983 人（53.9%）となっています。次いで、卸売業・小売業が 1,681 人で、そのうち他市町村常住の就業者は 610 人（36.3%）となっています。



本町の産業構造の特徴として、就業比率を全国と比較すると、「医療・福祉」が 1.7、「生活関連・娯楽業」が 1.4 と、全国に比べ高いことがわかります。



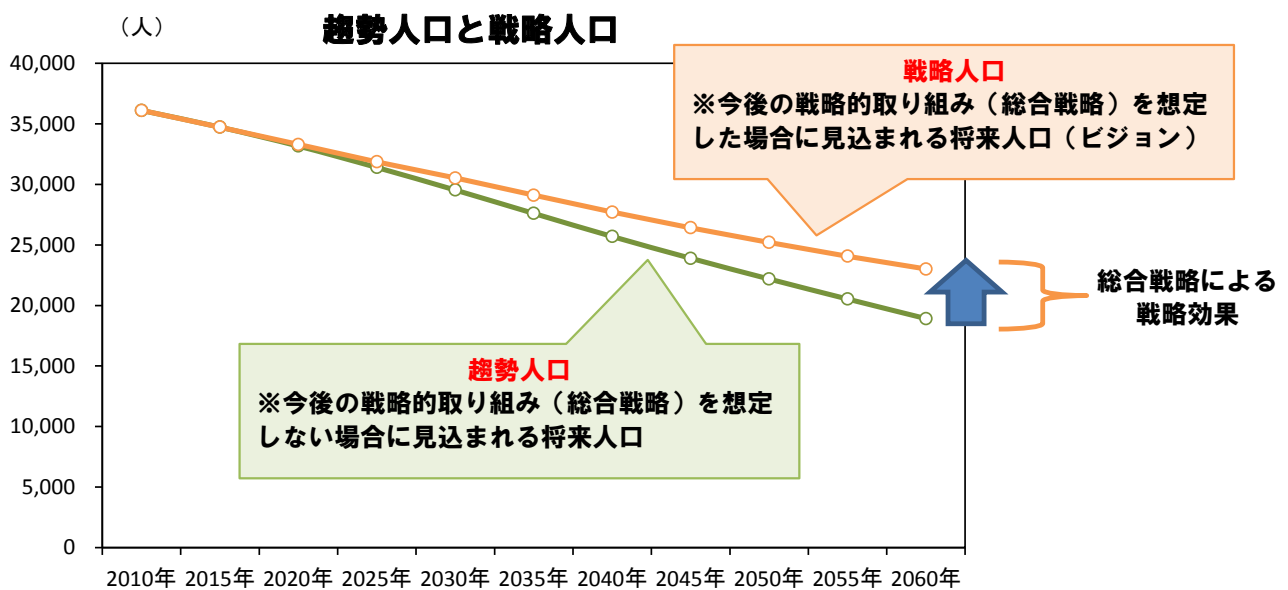
※特化係数とは、産業の業種構成などで、構成比を全国の構成比と比較した係数。1より大きい産業は、当該部門のウェイトが全国水準を上回っているといえる。

特化係数 = 毛呂山町のA業の就業者比率 / 全国のA業の就業者比率

2. 将来人口の見通し

(1) 趨勢人口と戦略人口

- 人口ビジョンにおいて設定する将来人口は、総合戦略による戦略的な人口政策の取り組みを前提とするものであり、そうした意味において戦略人口として捉えることができます。
- こうした戦略人口の意義は、その前提とした戦略的な人口政策の取り組みを想定しない場合の将来人口（＝趨勢人口）と対比することにより、了解されるものです。
- また、戦略人口の推計シミュレーションは、趨勢人口をベースに検討することになります。

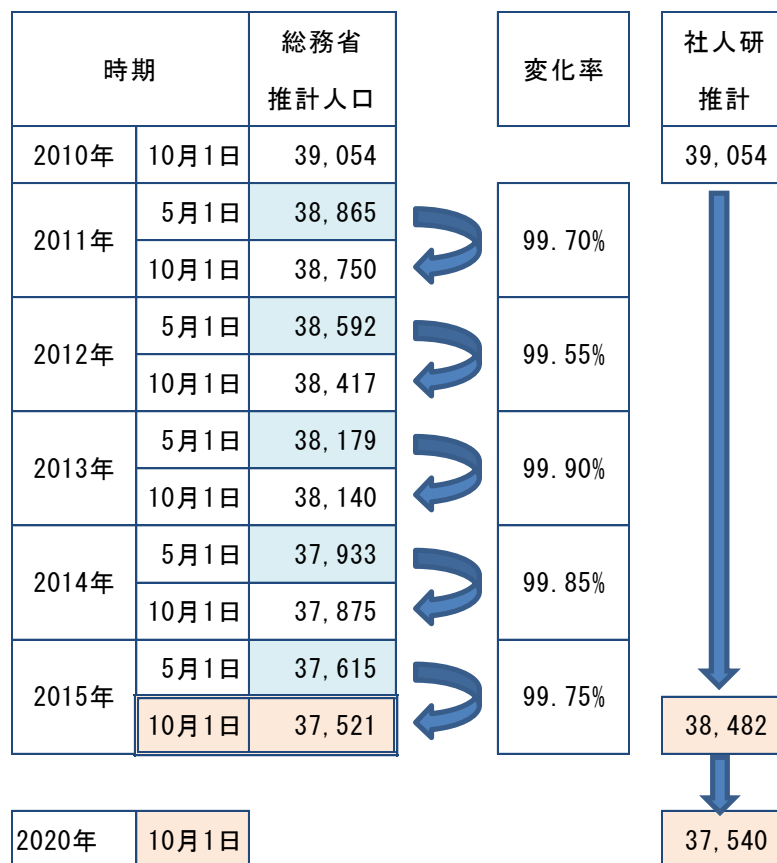


- 一般論としては、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による推計人口を趨勢人口として扱うことが考えられますが、社人研による推計人口において既に実態との乖離が明白な事例も少なくありません。
- したがって、人口シミュレーションを行うに先立ち、社人研推計による 2015 年の推計人口が現状の実態と大きく乖離していないかを確認する必要があります。

(2) 国調ベースによる現状人口と社人研による推計人口との比較

○総務省所管の“推計人口”とは、国調人口をベースに、毎月の住民基本台帳による人口変化に基づく増減をさせた人口であり、これにより最新の国調ベースの人口を把握することができます。

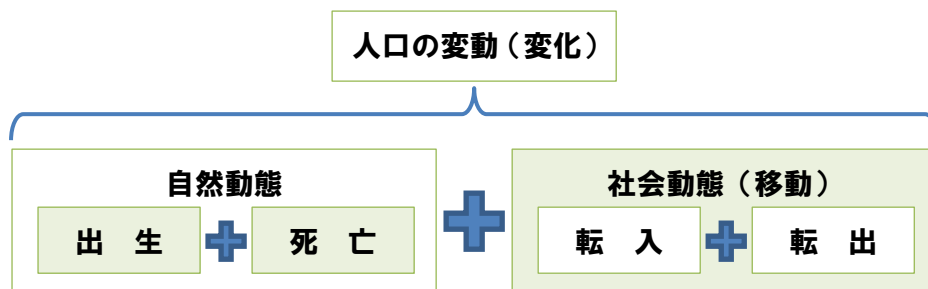
○2015年の町の人口について、“推計人口”（5月1日現在）では37,615人となっており、今年の10月1日現在では37,500人程度になることが見込まれるのに対し、社人研による推計では38,482人となっており、2015年現在において既に1,000人程度の乖離が明らかです。



○こうした検証を踏まえ、社人研による推計をベースにしつつ、実態に合わせた補正推計を行い、これを町の趨勢人口として捉え直すことが必要です。

(3) 人口推計の基本的考え方

○人口の変動（変化）は、出生・死亡・移動の3つの要素の変化によるものです。



○移動（社会動態）は、転入及び転出による現象ですが、人口推計上はこれを区別することなく、転入と転出の差引の結果としての（純）移動数として考えます。

○したがって、将来の人口推計を行うにあたっては、これらの人口変動の3要素の将来値をいかに設定するかがポイントとなります。

○人口推計は、上記の考え方を踏まえ、これに対応し得るコーホート要因法により行うものとしてします。

○具体の推計にあたっては、国が作成・配布した人口推計ツールを用いています。

3. 毛呂山町の趨勢人口の見通し

[社人研による推計]

○国立社会保障・人口問題研究所による推計は次のような仮定に基づいています。

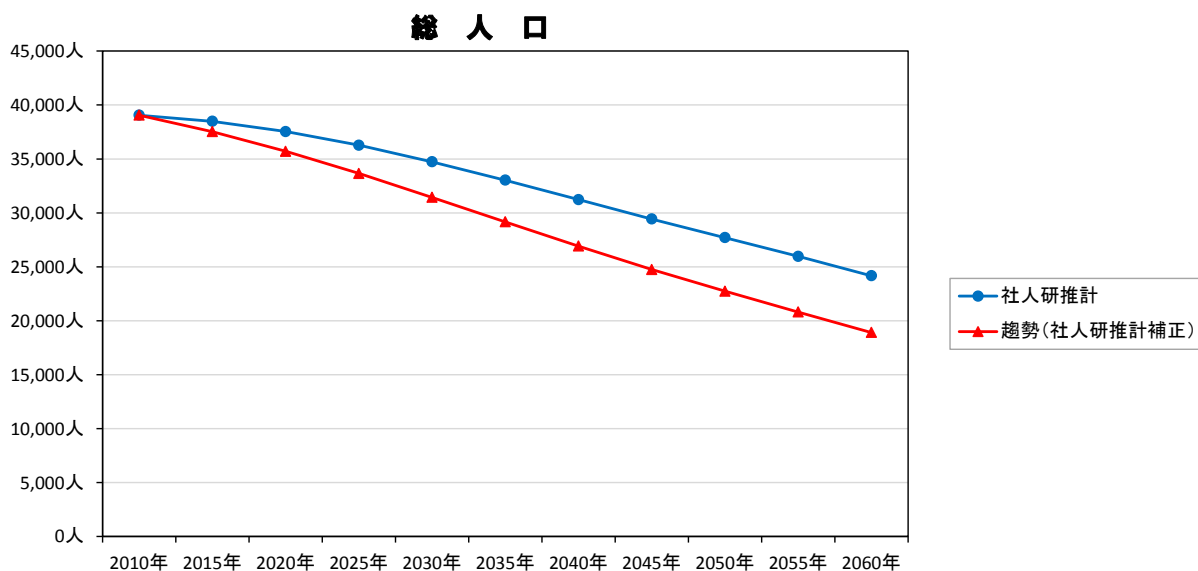
3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	原則として、2010年の全国の子ども女性比（15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比）と各市町村の子ども女性比との比をとり、その比が平成27(2015)年以降2040年まで一定として市町村ごとに仮定。
死亡	原則として、55～59歳→60～64歳以下では、全国と都道府県の2005年→2010年の生残率の比から算出される生残率を都道府県内市町村に対して一律に適用。60～64歳→65～69歳以上では、これに加えて、都道府県と市町村の2000年→2005年の生残率の比から算出される生残率を市町村別に適用。
移動	原則として、2005～2010年の国勢調査（実績）に基づいて算出された純移動率が、2015～2020年までに定率で0.5倍に縮小し、その後はその値を一定と仮定。

[趨勢（社人研推計補正）]

○前述のとおり、社人研による推計では 2015 年現在において既に実態との乖離が見られるため、補正を行いました。

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	社人研推計と同様。
死亡	社人研推計と同様。
移動	2015 年における実態との乖離を縮減するため、社人研の想定した移動率について下方修正。

[趨勢の見通し]



(単位：人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
社人研推計	39,054	38,482	37,540	36,273	34,734	33,027	31,230	29,430	27,708	25,968	24,167
趨勢(社人研推計補正)	39,054	37,529	35,707	33,654	31,442	29,167	26,914	24,751	22,743	20,808	18,903

(1) 趨勢人口を踏まえた将来人口シミュレーション

- 趨勢人口の見通しを踏まえ、ここでは出生動向（合計特殊出生率）と移動動向（純定住率）について次のような仮定に基づくシミュレーションを行います。
- シミュレーションは、2015年以降を対象に行います。

[Sim1]

- 趨勢人口をベースに出生率の上昇を見込み、移動については、社人研の想定した移動率について下方修正をしたものでの推計です。

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	下表の合計特殊出生率を使用。
死亡	社人研推計と同様。
移動	2015年における実態との乖離を縮減するため、社人研の想定した移動率について下方修正。

[Sim2]

- 趨勢人口をベースに出生率の上昇を見込み、純定住率が2060年までに1.0にまで上昇するものと仮定した推計です。

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	下表の合計特殊出生率を使用。
死亡	社人研推計と同様。
移動	21ページの純定住率を使用。

〈合計特殊出生率について〉

2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0.94	0.97	1.10	1.20	1.36	1.43	1.63	1.63	1.63	1.63	1.63

〈純移動率と純定住率について〉

○純移動率とは、各コーホート人口（性別・年齢区分別人口）に対する当該コーホートの移動数の比率であり、転入超過の場合はプラス、転出超過の場合はマイナスとなります。

○推計上、新たに導入する純定住率とは、この純移動率に1を加えた数値であり、転入超過の場合は1を超え、転出超過の場合は1未満（ゼロ以上）、また、転入・転出が均衡して移動ゼロの場合は1となります。

○趨勢（社人研推計補正）における純移動率から算出される純定住率についてみると、各年齢層の純定住率の積（総積）が男女ともに1未満の想定となっていることがわかります。

○これは、出生や死亡による人口変動要因を排除した場合、移動という要因だけで人口が減少していく構造であることを示しています。

〈社人研設定から算出される純定住率設定〉

純定住率・男

	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
0～4歳→5～9歳	1.05135	1.02993	1.03016	1.03078	1.03065	1.03035	1.03035	1.03035	1.03035	1.03035
5～9歳→10～14歳	1.00067	0.99311	0.99546	0.99545	0.99566	0.99558	0.99558	0.99558	0.99558	0.99558
10～14歳→15～19歳	1.23415	1.15824	1.17211	1.18492	1.18351	1.18493	1.18493	1.18493	1.18493	1.18493
15～19歳→20～24歳	1.22000	1.17701	1.19008	1.20067	1.20990	1.20837	1.20837	1.20837	1.20837	1.20837
20～24歳→25～29歳	0.71434	0.80125	0.80096	0.80149	0.80194	0.80168	0.80168	0.80168	0.80168	0.80168
25～29歳→30～34歳	0.92214	0.94227	0.94335	0.94315	0.94296	0.94283	0.94283	0.94283	0.94283	0.94283
30～34歳→35～39歳	0.97266	0.97364	0.97415	0.97388	0.97395	0.97382	0.97382	0.97382	0.97382	0.97382
35～39歳→40～44歳	1.00446	0.99571	0.99735	0.99114	0.98913	0.99263	0.99263	0.99263	0.99263	0.99263
40～44歳→45～49歳	1.00741	0.99701	0.99802	0.99905	0.99297	0.99114	0.99114	0.99114	0.99114	0.99114
45～49歳→50～54歳	0.96672	0.96837	0.96825	0.96812	0.96817	0.96815	0.96815	0.96815	0.96815	0.96815
50～54歳→55～59歳	0.99839	0.99139	0.99056	0.99039	0.99111	0.99214	0.99214	0.99214	0.99214	0.99214
55～59歳→60～64歳	0.98534	0.98281	0.98414	0.98350	0.98324	0.98385	0.98385	0.98385	0.98385	0.98385
60～64歳→65～69歳	0.99651	0.98765	0.99019	0.99145	0.99067	0.99031	0.99031	0.99031	0.99031	0.99031
65～69歳→70～74歳	0.97515	0.97713	0.97526	0.97631	0.97692	0.97688	0.97688	0.97688	0.97688	0.97688
70～74歳→75～79歳	0.97582	0.97351	0.97717	0.97390	0.97524	0.97594	0.97594	0.97594	0.97594	0.97594
75～79歳→80～84歳	0.94979	0.95585	0.95405	0.95799	0.95331	0.95460	0.95460	0.95460	0.95460	0.95460
80～84歳→85～89歳	0.93284	0.94420	0.94246	0.94027	0.94565	0.93928	0.93928	0.93928	0.93928	0.93928
85歳以上→90歳以上	1.01636	1.01609	1.00780	0.99826	0.99420	1.00337	1.00337	1.00337	1.00337	1.00337
	0.83400	0.82716	0.84588	0.85063	0.84835	0.85379	0.85379	0.85379	0.85379	0.85379

←総積

純定住率・女

	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
0～4歳→5～9歳	1.06237	1.03356	1.03362	1.03431	1.03418	1.03387	1.03387	1.03387	1.03387	1.03387
5～9歳→10～14歳	0.99705	0.99200	0.99280	0.99288	0.99308	0.99300	0.99300	0.99300	0.99300	0.99300
10～14歳→15～19歳	1.24988	1.15838	1.18613	1.18649	1.18519	1.18655	1.18655	1.18655	1.18655	1.18655
15～19歳→20～24歳	1.28538	1.23077	1.23678	1.26615	1.26583	1.26402	1.26402	1.26402	1.26402	1.26402
20～24歳→25～29歳	0.68085	0.77608	0.77672	0.77707	0.77717	0.77676	0.77676	0.77676	0.77676	0.77676
25～29歳→30～34歳	0.83568	0.87901	0.88101	0.88083	0.88056	0.88032	0.88032	0.88032	0.88032	0.88032
30～34歳→35～39歳	0.95989	0.96373	0.96499	0.96502	0.96492	0.96474	0.96474	0.96474	0.96474	0.96474
35～39歳→40～44歳	0.99129	0.98668	0.98753	0.98402	0.98367	0.98587	0.98587	0.98587	0.98587	0.98587
40～44歳→45～49歳	0.97820	0.97623	0.97681	0.97688	0.97580	0.97575	0.97575	0.97575	0.97575	0.97575
45～49歳→50～54歳	0.97579	0.97462	0.97443	0.97462	0.97465	0.97402	0.97402	0.97402	0.97402	0.97402
50～54歳→55～59歳	0.96966	0.97059	0.97073	0.97066	0.97062	0.97064	0.97064	0.97064	0.97064	0.97064
55～59歳→60～64歳	0.98462	0.98282	0.98493	0.98422	0.98343	0.98430	0.98430	0.98430	0.98430	0.98430
60～64歳→65～69歳	0.97784	0.97655	0.97715	0.97775	0.97760	0.97722	0.97722	0.97722	0.97722	0.97722
65～69歳→70～74歳	0.98218	0.98087	0.98038	0.98180	0.98324	0.98270	0.98270	0.98270	0.98270	0.98270
70～74歳→75～79歳	0.97243	0.97257	0.97397	0.97227	0.97292	0.97346	0.97346	0.97346	0.97346	0.97346
75～79歳→80～84歳	0.96829	0.96964	0.96894	0.97110	0.96813	0.96915	0.96915	0.96915	0.96915	0.96915
80～84歳→85～89歳	1.01125	0.99565	0.99032	0.98530	0.98992	0.98581	0.98581	0.98581	0.98581	0.98581
85歳以上→90歳以上	1.02249	1.01900	1.01265	1.00137	0.99663	1.00429	1.00429	1.00429	1.00429	1.00429
	0.78507	0.78873	0.80998	0.81561	0.81158	0.81559	0.81559	0.81559	0.81559	0.81559

←総積

○この趨勢（社人研推計補正）における純定住率設定をベースに、各年齢層の純定住率の積（総積）が2060年までに1.0にまで上昇することを仮定した純定住率は次のとおりです。

○全国的に総移動数が縮小傾向にあるトレンドを踏まえているとともに、今後の定住施策の推進を前提とするものです。

○Sim2では、下記の純定住率に基づき、純移動率を逆算して採用しています。

〈純定住率の積（総積）が2060年に1.0まで上昇する仮定に基づく純定住率設定〉

純定住率・男

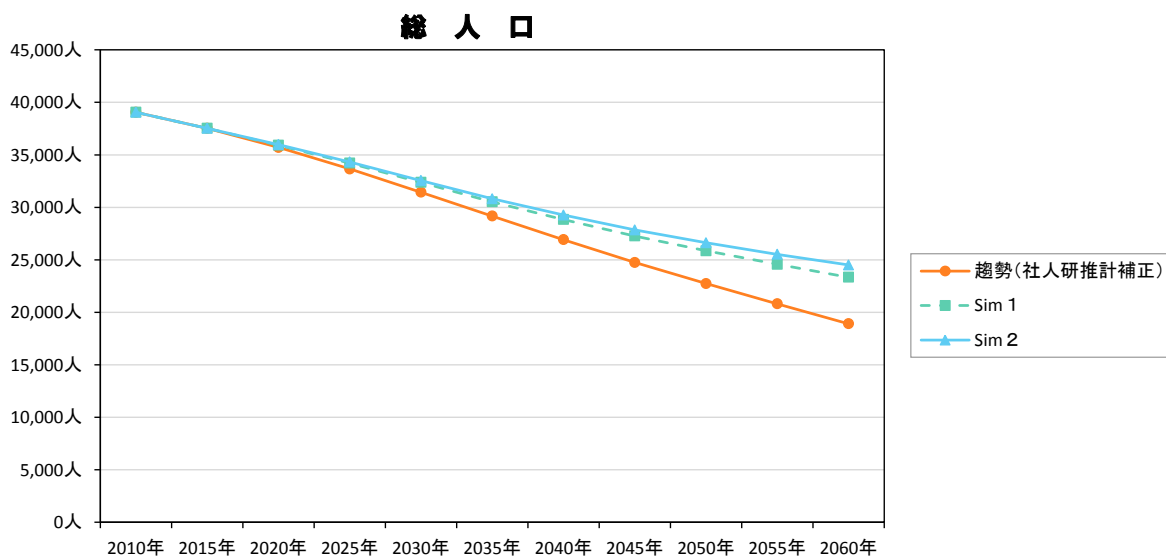
	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年	
0～4歳→5～9歳	1.05135	1.03156	1.03166	1.03312	1.03430	1.03479	1.03595	1.03711	1.03828	1.03944	
5～9歳→10～14歳	1.00067	0.99467	0.99691	0.99771	0.99919	0.99987	1.00099	1.00211	1.00323	1.00436	
10～14歳→15～19歳	1.23415	1.16007	1.17382	1.18761	1.18770	1.19004	1.19137	1.19271	1.19404	1.19538	
15～19歳→20～24歳	1.22000	1.17887	1.19181	1.20339	1.21418	1.21358	1.21494	1.21630	1.21766	1.21903	
20～24歳→25～29歳	0.71434	0.80252	0.80213	0.80330	0.80478	0.80514	0.80604	0.80694	0.80785	0.80875	
25～29歳→30～34歳	0.92214	0.94376	0.94473	0.94528	0.94630	0.94690	0.94796	0.94902	0.95008	0.95115	
30～34歳→35～39歳	0.97266	0.97518	0.97556	0.97609	0.97740	0.97802	0.97912	0.98021	0.98131	0.98241	
35～39歳→40～44歳	1.00446	0.99729	0.99881	0.99339	0.99263	0.99690	0.99802	0.99914	1.00026	1.00138	
40～44歳→45～49歳	1.00741	0.99859	0.99947	1.00132	0.99648	0.99541	0.99653	0.99765	0.99877	0.99989	
45～49歳→50～54歳	0.96672	0.96989	0.96966	0.97032	0.97160	0.97232	0.97341	0.97450	0.97560	0.97669	
50～54歳→55～59歳	0.99839	0.99295	0.99200	0.99264	0.99462	0.99641	0.99753	0.99865	0.99977	1.00089	
55～59歳→60～64歳	0.98534	0.98436	0.98558	0.98573	0.98673	0.98809	0.98920	0.99031	0.99142	0.99253	
60～64歳→65～69歳	0.99651	0.98921	0.99163	0.99369	0.99418	0.99458	0.99570	0.99681	0.99793	0.99905	
65～69歳→70～74歳	0.97515	0.97868	0.97668	0.97853	0.98038	0.98109	0.98219	0.98329	0.98439	0.98550	
70～74歳→75～79歳	0.97582	0.97505	0.97860	0.97611	0.97869	0.98015	0.98125	0.98235	0.98345	0.98455	
75～79歳→80～84歳	0.94979	0.95736	0.95544	0.96016	0.95668	0.95871	0.95979	0.96086	0.96194	0.96302	
80～84歳→85～89歳	0.93284	0.94569	0.94384	0.94240	0.94899	0.94333	0.94438	0.94544	0.94650	0.94756	
85歳以上→90歳以上	1.01636	1.01769	1.00927	1.00052	0.99772	1.00769	1.00882	1.00995	1.01108	1.01222	
	0.83400	0.850996	0.868333	0.886024	0.904075	0.922494	0.941289	0.960466	0.980034	1	←総積の設定

純定住率・女

	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年	
0～4歳→5～9歳	1.06237	1.03483	1.03492	1.03675	1.03846	1.03941	1.04097	1.04252	1.04408	1.04564	
5～9歳→10～14歳	0.99705	0.99323	0.99405	0.99523	0.99719	0.99832	0.99982	1.00131	1.00281	1.00431	
10～14歳→15～19歳	1.24988	1.15981	1.18762	1.18930	1.19010	1.19292	1.19470	1.19648	1.19827	1.20006	
15～19歳→20～24歳	1.28538	1.23229	1.23833	1.26915	1.27107	1.27080	1.27270	1.27461	1.27651	1.27842	
20～24歳→25～29歳	0.68085	0.77704	0.77769	0.77891	0.78038	0.78092	0.78209	0.78326	0.78443	0.78560	
25～29歳→30～34歳	0.83568	0.88010	0.88212	0.88291	0.88421	0.88504	0.88636	0.88769	0.88901	0.89034	
30～34歳→35～39歳	0.95989	0.96492	0.96620	0.96730	0.96891	0.96992	0.97137	0.97282	0.97427	0.97573	
35～39歳→40～44歳	0.99129	0.98790	0.98877	0.98634	0.98774	0.99116	0.99264	0.99412	0.99561	0.99710	
40～44歳→45～49歳	0.97820	0.97744	0.97803	0.97919	0.97984	0.98098	0.98245	0.98392	0.98539	0.98686	
45～49歳→50～54歳	0.97579	0.97583	0.97565	0.97693	0.97869	0.97924	0.98071	0.98217	0.98364	0.98511	
50～54歳→55～59歳	0.96966	0.97179	0.97194	0.97295	0.97464	0.97585	0.97731	0.97877	0.98023	0.98169	
55～59歳→60～64歳	0.98462	0.98403	0.98617	0.98655	0.98750	0.98958	0.99106	0.99254	0.99402	0.99551	
60～64歳→65～69歳	0.97784	0.97775	0.97838	0.98006	0.98165	0.98246	0.98393	0.98540	0.98687	0.98835	
65～69歳→70～74歳	0.98218	0.98208	0.98161	0.98412	0.98730	0.98797	0.98945	0.99093	0.99241	0.99389	
70～74歳→75～79歳	0.97243	0.97378	0.97519	0.97457	0.97695	0.97868	0.98015	0.98161	0.98308	0.98455	
75～79歳→80～84歳	0.96829	0.97084	0.97016	0.97339	0.97214	0.97434	0.97580	0.97726	0.97872	0.98018	
80～84歳→85～89歳	1.01125	0.99688	0.99156	0.98762	0.99402	0.99110	0.99258	0.99407	0.99555	0.99704	
85歳以上→90歳以上	1.02249	1.02026	1.01392	1.00373	1.00075	1.00967	1.01118	1.01269	1.01421	1.01572	
	0.78507	0.806467	0.828444	0.85102	0.874212	0.898035	0.922508	0.947647	0.973472	1	←総積の設定

[シミュレーション結果]

○シミュレーションの結果は、2060年の推計人口がSim1では23,344人、Sim2では24,509人となり、趨勢人口に比べると4,500人～5,600人程度の人口増と見込まれています。



(単位: 人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢(社人研推計補正)	39,054	37,529	35,707	33,654	31,442	29,167	26,914	24,751	22,743	20,808	18,903
Sim 1	39,054	37,529	35,917	34,211	32,380	30,525	28,838	27,265	25,862	24,571	23,344
Sim 2	39,054	37,529	35,972	34,313	32,554	30,814	29,264	27,846	26,619	25,524	24,509

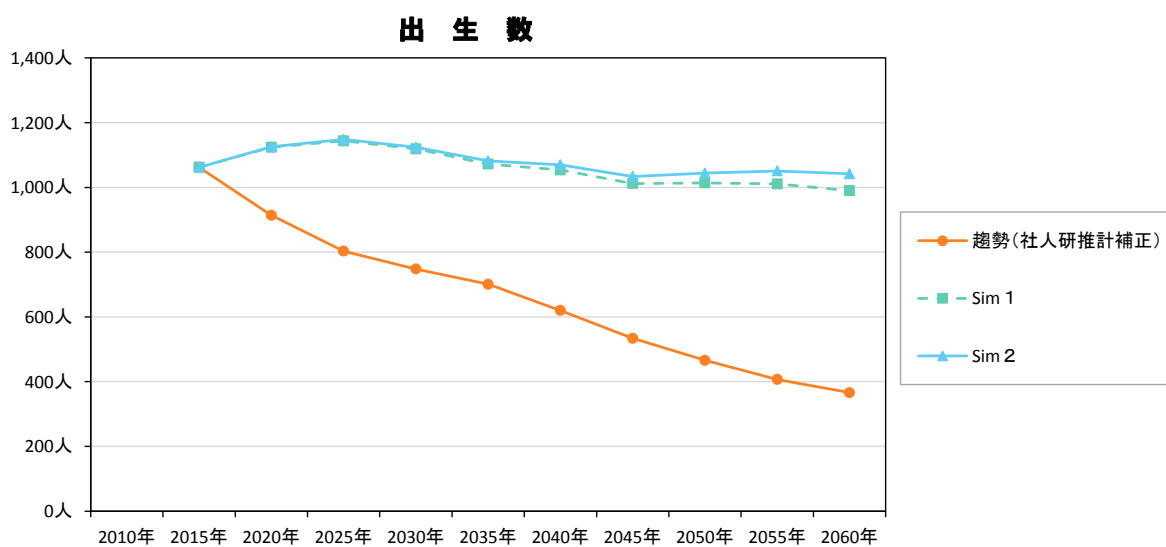
①出生数の見通し

○出生については、次のような合計特殊出生率の仮定に基づいています。

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢（社人研推計補正）	0.94	0.97	0.95	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94
Sim 1	0.94	0.97	1.10	1.22	1.36	1.49	1.63	1.63	1.63	1.63	1.63
Sim 2	0.94	0.97	1.10	1.22	1.36	1.49	1.63	1.63	1.63	1.63	1.63

○趨勢人口では 2025 年以降の合計特殊出生率が 0.94 で推移することを想定していますが、若い年代層の減少に伴い、出生数は減少の一途を辿ることが見込まれます。

○これに対し、Sim 1、2 では比較的安定的に推移することが見込まれます。



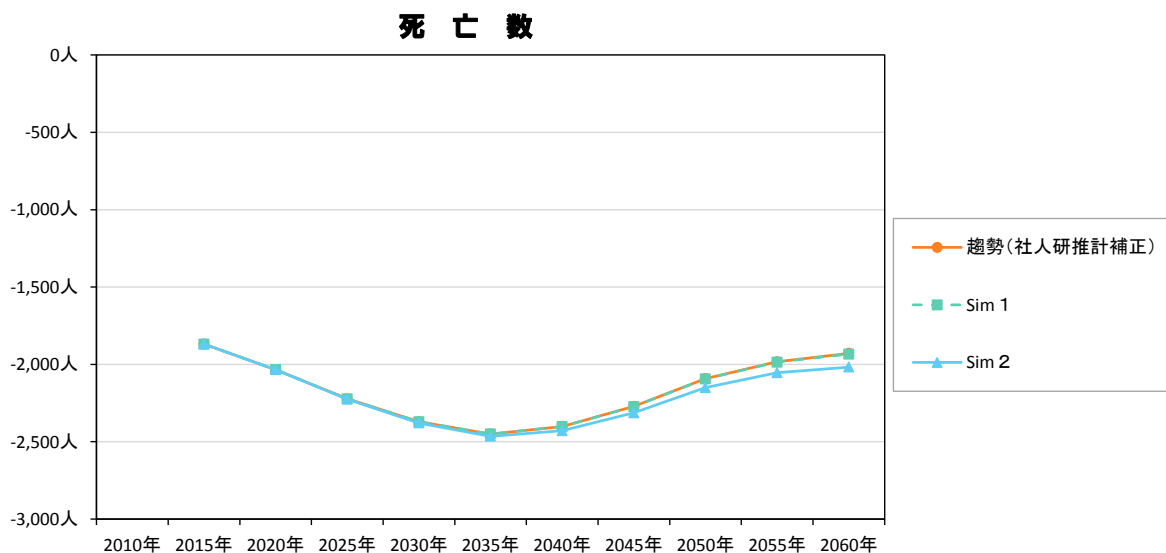
(単位: 人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢（社人研推計補正）		1,062	914	803	748	701	620	534	466	407	366
Sim 1		1,062	1,124	1,144	1,119	1,072	1,054	1,012	1,014	1,011	990
Sim 2		1,062	1,126	1,148	1,124	1,082	1,070	1,034	1,044	1,051	1,042

②死亡数の見通し

○死亡数については、趨勢人口や各シミュレーションにおいて、いずれも社人研推計の設定を採用しています。

○したがって、趨勢人口や各シミュレーションにおける死亡数の差異は、出生数や移動数の違いに基づくものです。

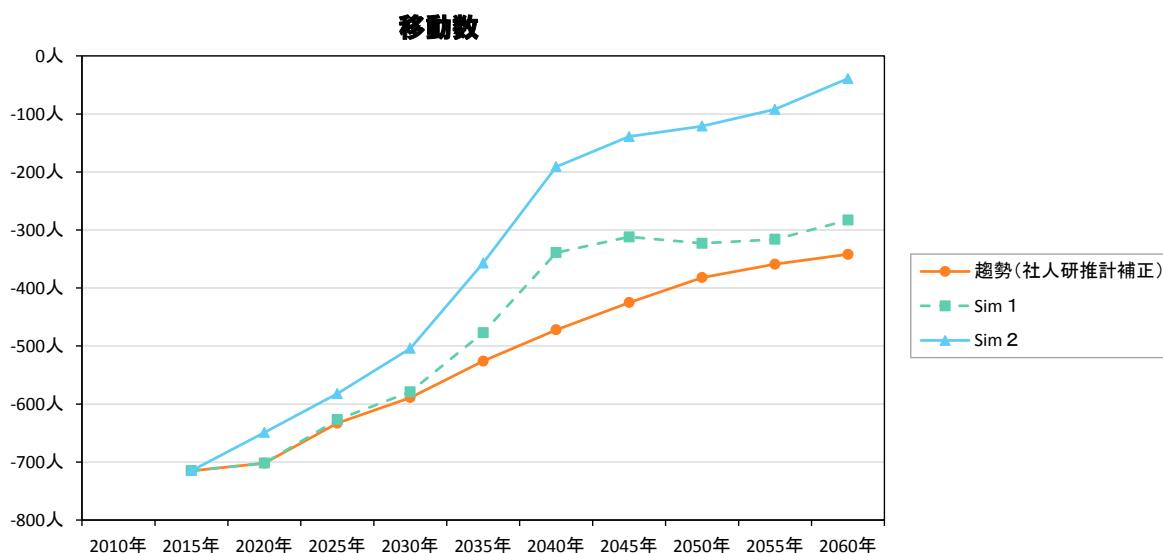


(単位: 人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢(社人研推計補正)		-1,869	-2,034	-2,223	-2,371	-2,450	-2,401	-2,272	-2,092	-1,983	-1,929
Sim 1		-1,869	-2,034	-2,223	-2,371	-2,450	-2,402	-2,273	-2,094	-1,986	-1,934
Sim 2		-1,869	-2,034	-2,225	-2,379	-2,465	-2,429	-2,313	-2,150	-2,054	-2,018

③移動数の見通し

○いずれの推計においても移動数の縮小（転出超過の縮小）が想定されています。2060年には、Sim1でマイナス283人、Sim2でマイナス39人になることが見込まれます。



(単位: 人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢(社人研推計補正)		-715	-702	-633	-589	-526	-472	-425	-382	-359	-342
Sim 1		-715	-702	-627	-579	-477	-339	-312	-323	-316	-283
Sim 2		-715	-649	-582	-504	-357	-191	-139	-121	-92	-39

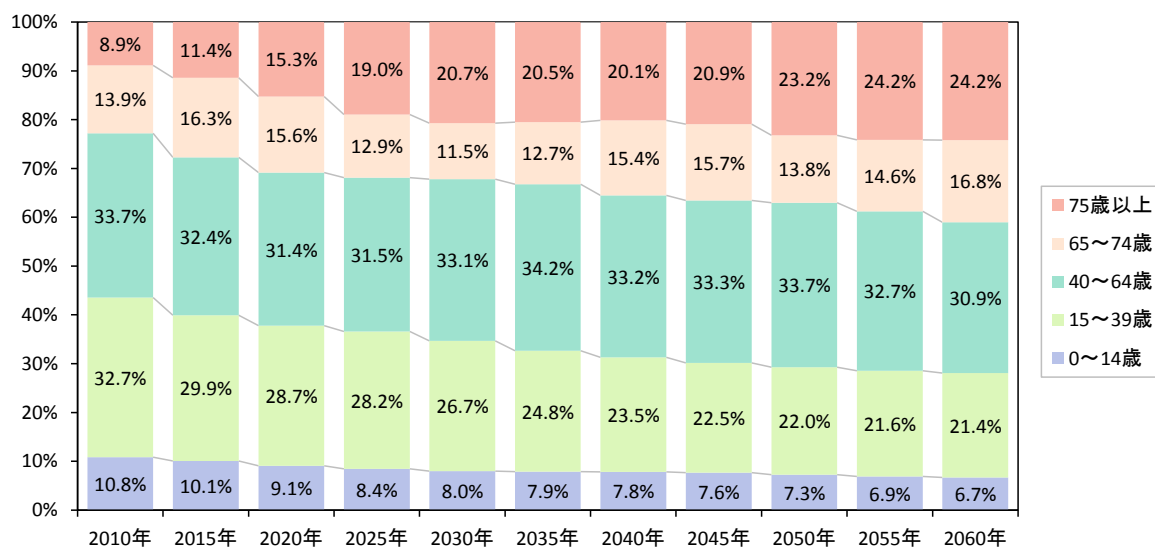
④年齢構造別人口の見通し

○推計結果について、年齢構造別に示すと次のとおりです。

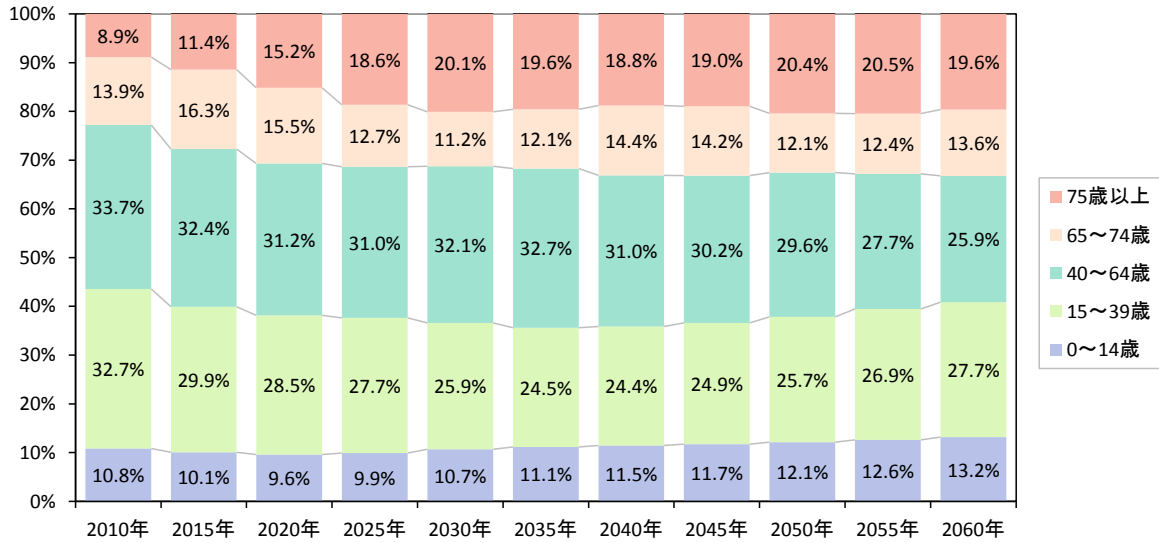
(単位：人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢（社人研推計補正）	39,054	37,529	35,707	33,654	31,442	29,167	26,914	24,751	22,743	20,808	18,903
0～14歳	4,228	3,778	3,234	2,834	2,514	2,296	2,110	1,892	1,653	1,436	1,264
15～39歳	12,787	11,207	10,253	9,478	8,396	7,219	6,315	5,567	5,008	4,501	4,048
40～64歳	13,143	12,142	11,199	10,615	10,404	9,967	8,933	8,241	7,662	6,803	5,839
65～74歳	5,430	6,110	5,572	4,348	3,616	3,704	4,141	3,878	3,139	3,040	3,177
75歳以上	3,466	4,292	5,449	6,379	6,512	5,981	5,415	5,173	5,281	5,028	4,575
Sim 1	39,054	37,529	35,917	34,211	32,380	30,525	28,838	27,265	25,862	24,571	23,344
0～14歳	4,228	3,778	3,444	3,391	3,452	3,400	3,306	3,197	3,138	3,096	3,074
15～39歳	12,787	11,207	10,253	9,478	8,396	7,473	7,043	6,776	6,642	6,604	6,465
40～64歳	13,143	12,142	11,199	10,615	10,404	9,967	8,933	8,241	7,662	6,803	6,053
65～74歳	5,430	6,110	5,572	4,348	3,616	3,704	4,141	3,878	3,139	3,040	3,177
75歳以上	3,466	4,292	5,449	6,379	6,512	5,981	5,415	5,173	5,281	5,028	4,575
Sim 2	39,054	37,529	35,972	34,313	32,554	30,814	29,264	27,846	26,619	25,524	24,509
0～14歳	4,228	3,778	3,450	3,403	3,469	3,431	3,356	3,267	3,231	3,214	3,227
15～39歳	12,787	11,207	10,269	9,506	8,441	7,542	7,141	6,914	6,828	6,852	6,780
40～64歳	13,143	12,142	11,214	10,643	10,455	10,054	9,057	8,407	7,876	7,056	6,342
65～74歳	5,430	6,110	5,580	4,361	3,635	3,737	4,199	3,957	3,228	3,153	3,327
75歳以上	3,466	4,292	5,459	6,400	6,554	6,050	5,511	5,301	5,456	5,249	4,833

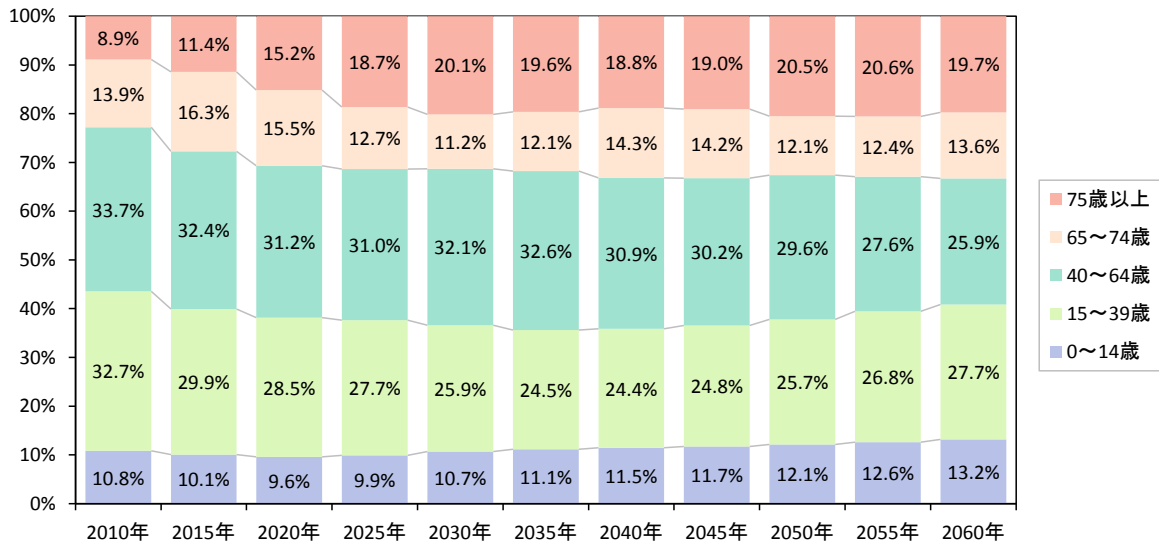
趨勢（社人研推計：補正）年齢構成比



Sim1：年齢構成比



Sim2：年齢構成比



○Sim1、2で推計したように、2040年までに合計特殊出生率が人口置換水準の1.63に達することの効果として、趨勢人口では2060年の年少人口比率が6.7%にまで減少するのに対し、Sim1、2では13.2%まで上昇させることが可能です。

○こうした年少人口比率の増加の効果もあって、趨勢人口では2060年の高齢化率が41.0%に対し、Sim1、2では33%程度に抑制することが可能です。

4. 毛呂山町における人口動向・構造の特性と課題

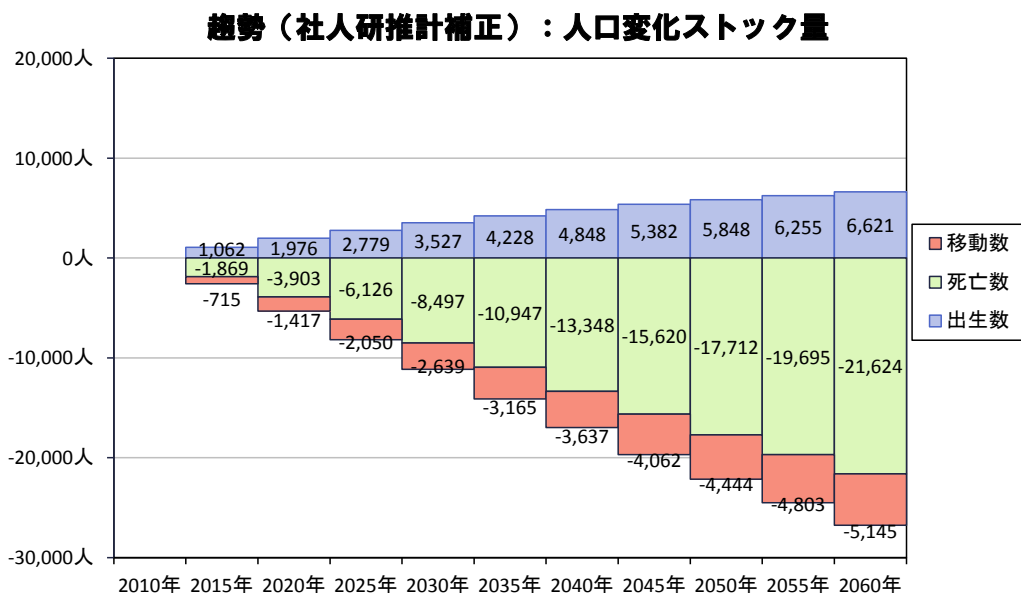
〔特 性〕

- 本町の総人口は平成 7 年の 39,808 人をピークに減少過程に入り、その後は緩やかに減少傾向で推移しており、平成 22 年には 39,054 人となっています。
- この間に、年少人口（0～14 歳）比率は 14.5%から 10.8%に減少したのに対し、高齢化率は 10.5%から 22.8%に増加しており、本町においても少子高齢化が進行しています。
- 出生数については、平成 21 年の 227 人から平成 22 年には 199 人になっており、その後減少傾向で推移し、平成 25 年には 173 人になっています。
- 平成 21～25 年の5年間の合計特殊出生率は、ほぼ横ばいで推移していますが、全国・埼玉県と比較して低く、すべての年で 1.0 を下回っています。
- 死亡数については、年間 370 人前後で推移しています。出生数と合わせた自然動態としては 150～200 人前後となっており、このマイナス幅は拡大傾向にあります。
- 転入については平成 25 年では年間 1,304 人程度、転出についても 1,284 人程度となっており、これらを合わせた社会動態としては 20 人の転入超過となっています。
- 転入・転出といった移動の特に多い年代は、男女ともに 20～29 歳であり、進学・就職や結婚等のライフイベントに伴う移動と考えられます。
- 転入元・転出先については、転入・転出ともに坂戸市が最も多く、次いで川越市、鶴ヶ島市となっています。
- 通勤・通学の状況については、15 歳以上の就業者・通学者 20,725 人のうち、町内に通勤・通学している人が 7,924 人（38.2%）、他市区町村が 12,072 人（58.2%）となっています。
- 町外への通勤・通学先として最も多いのは坂戸市が最も多い 2,095 人（17.4%）、次いで川越市が 1,406 人（11.6%）、日高市が 1,153 人（9.6%）の順となっています。
- 逆に、本町への通勤・通学についても、坂戸市から通勤・通学している人が 1,330 人（17.9%）で最も多くなっています。
- 平成 22 年の町内従業の就業者について産業分類別にみると、医療・福祉が 3,677 人と最も多く、そのうち他市町村常住者は 1,983 人（53.9%）となっています。

[課題]

○今後の趨勢人口として、2010年の39,054人から2060年には18,903人へと減少することが見込まれますが、その減少の多くは死亡によるものです。

○下図に示すとおり、2010年から2060年までの50年間で計21,624人程度の死亡が見込まれています。



○高齢化した人口構造を背景に、死亡数を大きく減少させることは困難と考えられ、したがって、今後の人口政策としては、出生数の増加並びに転入促進・転出抑制が重要になってきます。

○高齢者人口は既にピークを迎えているものの、総人口の減少に伴い、高齢化率は今後も上昇していくことが見込まれています。

○出生動向については、趨勢人口で仮定された合計特殊出生率の水準(2025年以降0.94)を上回るような少子化対策を図る必要があり、そのためには、経済的支援、ワークライフバランスの進展等を含めた子育て環境の向上を図るとともに、併せて、若い世代の未婚化・晩婚化を抑制するための婚活支援の取組が極めて重要になってくるものと考えられます。

○前記の高齢化率の上昇を抑制していくためにも、出生数の増加や若い世代の人口増加を図るための取組は重要になります。

Ⅲ. 人口の将来展望

1. 将来を見据えた人口問題に対する取組の考え方

○2010年の総人口 39,054 人から、今後の趨勢人口として 2060 年には 18,903 人まで減少することが見込まれます。

○人口規模の大きな縮小は、地域における消費活動を減退させるだけでなく、労働に従事する人口も減少することから、結果として地域における経済規模が縮小し、日常生活における様々なサービス・利便性が低下していくとともに、こうした都市機能・生活機能の低下により、さらに人口の転出を促すという悪循環に入り込むことが危惧されます。

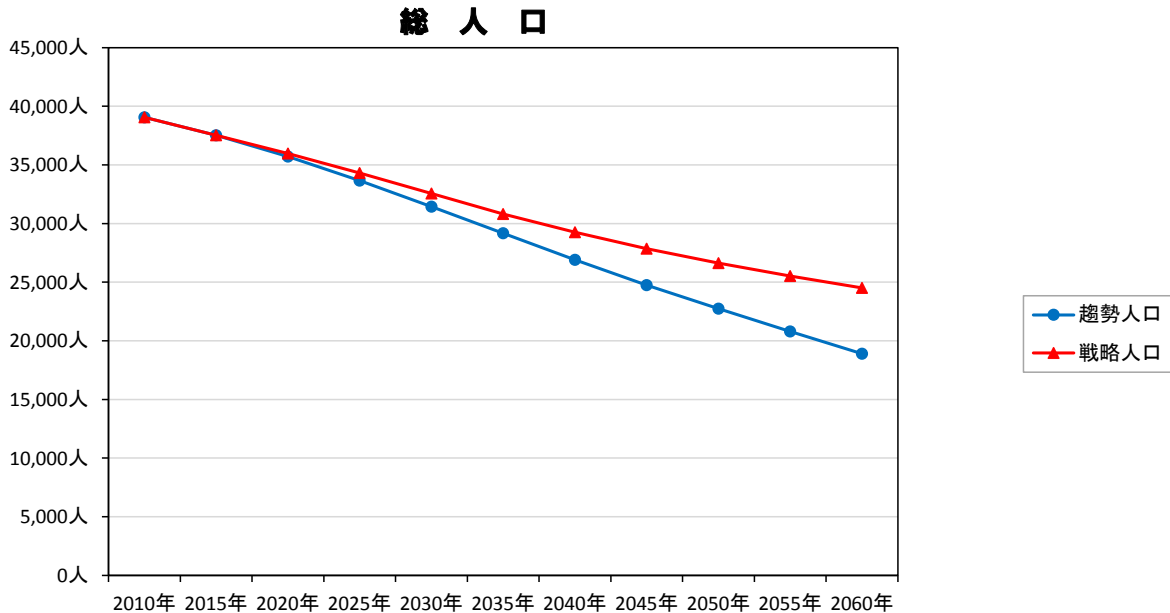
○また、人口の問題は規模だけの問題ではなく、人口の年齢構造の問題でもあり、このまま少子高齢化の傾向が続くことは、高齢介護等をはじめとするサービス需要の問題だけではなく、長期的に安定的な人口規模を維持するという観点からも少子高齢化を抑制し、人口構造を健全化する必要があります。

○本町では、こうした趨勢人口を踏まえた上で、合計特殊出生率の上昇並びに純定住率の上昇を図ることにより、長期的視点から人口減少の抑制に取り組むこととし、その目標として目指すべき将来の戦略人口を設定します。

2. 戦略人口と将来展望

(1) 戦略人口

○少子高齢化、転出超過といった本町の人口問題に対して、長期的視点から取り組むことにより、2060年において24,500人程度の人口規模を目指します。



(単位: 人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	39,054	37,529	35,707	33,654	31,442	29,167	26,914	24,751	22,743	20,808	18,903
戦略人口	39,054	37,529	35,972	34,313	32,554	30,814	29,264	27,846	26,619	25,524	24,509
戦略効果 (戦略人口-趨勢人口)			265	659	1,112	1,647	2,350	3,095	3,876	4,716	5,606

○なお、戦略人口における合計特殊出生率及び純定住率については、次のように仮定しています (前述の Sim 2)。

	西 暦(年)										
	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
合計特殊出生率	0.94	0.97	1.10	1.20	1.36	1.43	1.63	1.63	1.63	1.63	1.63

設 定	
純定住率	純定住率が 2060 年までに 1.0 にまで上昇するものと仮定。

3. 目指すべき将来の方向

○人口の現状分析から把握した目指すべき方向、将来展望に必要な調査分析の結果を踏まえ、毛呂山町の人口に関して目指すべき将来の方向を提示します。

①毛呂山町に雇用を創出して、生活基盤を確保する必要があります。

定住促進において最も重要なのは、雇用の確保です。町内常住の就業者数の結果における上位産業は、医療福祉、卸売業、小売業、製造業となっており、こうした産業のさらなる振興と、企業誘致による新規雇用の創出を進めていきます。

②毛呂山町への新しいひとの流れを創出する必要があります。

毛呂山町の良さを多くの方に知ってもらうために、観光資源を活用して交流人口を増加させ、さらに定住促進策により、進学等で町を離れた若者がふるさとである毛呂山町に戻ってきたくなるまちに、また現在、町に住んでいる学生が住み続けたいまちにしていきます。

③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる必要があります。

女性における年齢別の転出状況から、進学、就職、結婚などのライフイベントによって町から転出していることが想定されます。こうした状況から、結婚、出産、子育ての支援をおこない、毛呂山町に定住して子育てしたくなるまちを目指します。

④毛呂山町の魅力を高めていく必要があります。

毛呂山町の良さをさまざまなメディアを通じてPRし、転入者を増やして将来的には転入者数と転出者数を均衡させていく必要があります。毛呂山町にしかない魅力を高めていく施策の検討を行います。